

「夕映えリリシズム」

【登場人物】

村上慎太郎

秋山 良晴

秋山 彰吾

秋山 若菜

秋山 美恵子

青野 ちえ

大森 まどか

木本 なぎさ

田口 はじめ

小島 ももこ

柊 サトミ

原 ユキエ

吉村 アヤ

青野ちえ（以下、ちえ）が語りはじめる。

ちえ

・今日こそハッキリ言えたらいいんですけど・他人（ヒト）にとつたらどうでもイイ問題や思います。・私には別れたい人がいます。ハイ。・ハイハイハイ。アレですよ？ 「ほな、別れたらええやん」・ですよねですよ。百も承知です・そりゃ私が別れたいと思ってるんやったらスパッと別れたほうがいいですよ。・いやでもね・豆腐なんです。自分の意志、豆腐なんです。ヤワヤワなんです。自覚してます。スパッと竹を割ったような人間やったら、こんなグダグダ言うてないですよ・そんな豆腐の私は今、彼にできるだけ冷たく接して、彼に嫌いになってもらおう兵糧攻めキャンペーンを絶賛実施中なんです。・ですがジワジワわかってきたことがあります・彼は「別れるんやったらオレ死ぬ」とか言う、そっち系の「付き合った後メンヘラ発覚系男子」で・。おそらく私が私でなかったら、きつと速攻私に言うでしょう。「え、スグ別れー」「男なんて星の数ほどおるやん」紋切り型の決まり文句でしょうが、一時間はそれで説教できます。今日こそ、スッパリ別れ話を・と、待ち合わせ場所に指定された公園へと、やってきました。

初秋の公園が浮かび上がる。

そこでは、少女と、裸足のおじさんが一冊のノートを取り合っていた。

ちえ

・少女が、裸足のおじさんとやりあっていました。あまりこういうのに関わりをもたない人生でありたい・。

ちえはその場から立ち去ろうとした。
が、少女とちえ、目が合う。

ちえ

や、少女に見られている気がします・。警察案件ですよ・や、でも裸足のおじさんが少女を・傍観者ではいられないようです。止む無しや・。（少女と裸足のおじさんの間に入り）え？ え？ アノ・大丈夫ですか？

少女

裸足のおじさん 娘なんです。

ちえ ああ。
少女 …誰ですか？
裸足のおじさん おい。
少女 違います。
裸足のおじさん お前な…。

ちえの視線が、裸足のおじさんの足元にあって、

裸足のおじさん いや、これはちゃんです。咄嗟に追いかけてきたんで靴履いてないだけで。(少女の手を引き) 一回家戻ろ。

少女 (悲鳴)

裸足のおじさん やめろ。(手を引こうとする)

少女 (ので、悲鳴)

裸足のおじさん 近所迷惑なるから。(手を引こうとする)

ちえ (ので、間に割って入り) え？ わかんないですけど。わかんないですけど、さすがにごめんなさい。一回離れてあげてください。この子、嫌がってはるんで。

裸足のおじさん うちの娘なんです。

ちえ とりあえず嫌がってはるんで。離れてもらって。言うこと聞いてくれな

いと…。(携帯電話を出して) 警察呼びますよ。

裸足のおじさん 警察は…。

ちえ あ、あれやったら一回靴履いてきてもらって…。

裸足のおじさん (自分の足元を見て) あああ…。もう！

裸足のおじさんは、走り去る。

ちえ (少女に) 逃げて。とりあえず、ココは私に任せて大丈夫やし。

少女 …。

ちえ もうすぐ男の人も来はるし。二人いれば、なんとかなるやろうし。

…はよ逃げんと裸足のおじさん戻ってくるで！ ほら！

少女 …。

そこへ秋山彰吾(以下、彰吾)が現れる。

彰吾 なにしてんの。

ちえ 来た来た来た。この子連れて逃げるし、裸足のおじさんが来たら止めて。

私、逃げて警察電話するし。

彰吾

(少女に対して) いや、俺の妹…。

ちえ

妹？ 妹さんなんや。裸足の変なおじさんが、向こうから来るかもしれへんし、もし来たら足止めしといて。うち、妹さんと一緒に逃げるし。

彰吾

？

ちえ

来た来た来た！ あいつ！ あいつ！

ちえは、少女・秋山若菜(以下、若菜)の手を引きこの場を去る。

裸足のおじさん・秋山良晴(以下、良晴)が戻ってくる。

今度は、靴を履いている。

良晴

なんで彰吾おんねん。

彰吾

なにしてんの。

良晴

若菜とおる人だれ？

彰吾

俺の彼女やけど。

良晴

あー、そうなんや。

彰吾

オヤジ来る時、変なおじさん見てない？

良晴

・・変なおじさん？ は、見てないけど…。

彰吾

なんか裸足の変なおじさんが向こうから来るらしい。一緒に止めるの手伝ってくれ。

良晴

あー。ちやうねん彰吾。それ・・俺やねん。

彰吾

は？

良晴

今は裸足じゃないけど、さつき裸足で…。

彰吾

オヤジが、裸足の変なおじさんってこと？

良晴

あんまり認めたくないけど。咄嗟に若菜、追いかけてきたらやな…。

彰吾

つかけてもなんでもあったやろ。

離れて様子を窺っているちえに、

彰吾

ちえ！ うちの親父。大丈夫。

良晴

・・警戒してはるな。

彰吾

親父が思ってるより裸足のおじさんってびっくりするから。気を付けてくれよ。

良晴

わかってるよ。

彰吾

なにがあってん。

良晴

色々や。

彰吾

・・。(ちえに) 大丈夫やから！

ちえは若菜の盾になりつつ戻ってきて、

ちえ どういうこと？

彰吾 うちの親父。

ちえ え？

彰吾 妹の若菜。

若菜 ・・。

ちえ (若菜に) さっきお父さんじゃないみたいに言っただけ？

若菜 ・・。

良晴 彰吾の父です・彰吾の彼女さんですよ？

ちえ あ、青野です。

良晴 すいません。さっきは裸足で。普段は靴履く普通の人間なんで。

ちえ いやいや。大丈夫です・すいません騒いじゃって。

良晴 いやいや。こちらこそごめんなさいね。若菜。ノートは。

若菜 そこら辺に捨てた。

良晴 捨てたって何処に？

若菜 知らん。

良晴 えー・・。

良晴は、ノートを探しに去る。

彰吾 (ちえに) ・・ごめん。

ちえ ううん。

彰吾 (若菜に) お前オヤジと何があつたん。

若菜 またノートに、私のこと書いててん。(ちえに) ちよつとどう思います？

お風呂場つてすりガラスになつてるじゃないですか。で私、シャワー浴びてたんですよ。そしたら、父親がお風呂場の磨りガラス越しの私のシルエットで詩書いてて。「オトナの女になつて、お母さんになつていくのだね(*ー)」とか書いてて・ヤバくないですか？

彰吾 若菜。恥ずかしいしやめよか。

若菜 女の人がお母さんになるつてヒトに言うのも時代錯誤やし、娘のお風呂上がりのシルエット見て、そんなこと考えるのおかしくないですか？

ちえ どうやらね・・。

若菜 ロリコンの発想や思いません？

彰吾 若菜。一回、家帰ろ。

靴とノートを手を持って戻ってくる良晴。

彰吾　なんでまた裸足やねん。

良晴　（ノートを）川に投げとってん。川入ったんや。

彰吾　とりあえず外でスグ裸足になるのやめてくれ。

良晴　オレだって本望じゃないよ。

若菜　・・。

良晴　若菜。俺ここに書いてる事は、違うから。

若菜　・・。

良晴　ちやう。文字やから。メモやから。そういう変な感情一切ないから。

若菜　逆に一万歩譲って思ってもいいわ。文字にするな！

良晴　・・若菜違うぞ。余白やぞ。詩は、余白。若菜ちよつと前までは、こん

な小っちゃかったのに、日常のふとした瞬間に、エー、こんなおつきな

ったんや、ビックリっていう余白がやな・・。

若菜　なんで？　なんで、そんな文字にする必要あるん？

良晴　それは・・。

若菜　なに？　言うてみいや！

良晴　俺が・・、詩人やからや。

彰吾　ちよつとやめよか。ごめん。ちえ。数メートルあっちに行つといてもら

ちえ　つていい？

ちえ　あ、うん。（離れる）

彰吾　（が）もうちよい。数メートル。

ちえは言われるがまま、更に数メートル離れる。

彰吾　あのさ・・。詩、辞めろ。

良晴　え。

彰吾　酒タバコやめろとはいわん。詩やめろ。こんななるん何回目や。彼女

の前でずっと恥ずかしい。

良晴　・・。

彰吾　もう、この数十年でわかった。マジでやめろ。

良晴　・・なにを？

彰吾　詩や！

良晴　どういう意味？

彰吾　稼げる訳でもナシ、仕事でもナシ、揉めるだけ。もう詩やめろ。

良晴　・・わかった。

若菜　・・。

彰吾　いつ。

良晴
彰吾
良晴
今やめろ。
今やめろ。
今？

良晴の手にあったノートを彰吾は取り上げる。
そして、地面に投げつけ、

彰吾 踏め。
良晴 え？
彰吾 ノート踏め。
良晴 なんやそれ。
彰吾 踏み絵みたいに。それでケジメつけろ。
良晴 ・・・。

良晴はノートを踏んでみようとしますが、

良晴 ・ ・ ・（なかなか踏めず）あああああ。
彰吾 うるさいうるさい。わかった。（ノートを拾い上げ） ・ ・ ・台所で焼こ。
良晴 そこまでするか？
彰吾 ちゃんと見とけ。で、やめろ。詩を。
良晴 でもそんなんしたら、よお考えてみい！ 火災報知器鳴るやろ。
彰吾 電源抜けばええやろ！
良晴 えー・・・！
彰吾 （若菜に）家案内したって！

彰吾はノートを持って家へ。
良晴は追いかける。

若菜 （改めて）妹の若菜です。
ちえ ああ。
若菜 うちの家、要素多めですけど大丈夫ですか？
ちえ あ、うん。多そうやね。
若菜 まだあるんですけど・・・。

【2】 秋山家

秋山家のリビングルーム。

テレビからは下ツママの音。

秋山美恵子（以下、美恵子）がくつろいでテレビをみている。

若菜に案内されてちえが入ってくる。

美恵子（気がつき）こんばんは・・・あ、どうぞ座って座って。

ちえ（座って）お邪魔します。

美恵子（若菜に）お友達？

ちえ 彰吾さんと同じ大学の青野っていいいます。

美恵子 ああ。お茶入れてくるね。（そう言いつつテレビに夢中で）これって後

でネットで見れるんかな（若菜に）ちょっとコレ最後犯人誰かみといて

若菜

ちえ あ、お構いなくです・・・。

美恵子は、台所へ消える。

若菜は、ちえの背後で立ったままいる。

気を利かせて、ちえが話しかける。

ちえ ・・お姉さん？

若菜 お父さんの彼女。若いやろ。ロリコン実現させとんねん。

ちえ ・・へえ。

若菜 この前、お父さん手術した時に、籍入れたみたいやし、もう嫁になったみたいやけど。病院って結婚してへんと、色々ややこしいねん。告知とか。

ちえ なんか病氣してはったん？

若菜 来月までに再発せんかったら大丈夫なんやって。知らんけど。

ちえ ・・。

若菜 あとぎ。これ言いたくて、ここいたんやけど・・・。彼氏の実家にはじめて来るときは、なんか手土産とか持ってきた方がええんちゃうかな。

ちえ あ、ごめん。今日来るって思てなかったから。

若菜 常識のない子や思われたら損やん。今日は急やったしアレやけど、今度来る時は、氣イ付けや。

ちえ ・・はい。

若菜 出てくるかなーって待っててん。

ちえ なんか、ごめん。

若菜 ごめんに「なんか」ってつけるんやったら謝らんでエエと思うで。別に

ちえ こっちも怒ってるわけちゃうし。

ちえ ・・。

彰吾入ってくる。

彰吾 ちえ、ごめんな。
ちえ ううん。
彰吾 うちの家族、要素多めやろ。
ちえ あ、全然全然。
彰吾 若菜、変なコト言っていないやろな。
若菜 常識的なことしか言っていないけど。
彰吾 若菜の常識スレてるからなあ。
若菜 . . .
ちえ . . . (彰吾に) いくつなん?
彰吾 (若菜に) いくつやっけ?
若菜 17。
彰吾 もう17だったん? 早。
ちえ 高校生?
若菜 高校行っていない。
ちえ へえ。

美恵子が姿を現し、

美恵子 (テレビを見て) あー。また過去回想してんの。引つ張りよんなあ。
ちえ (ちえに) 熱いのと冷たいのどっちがいい. . . ?
彰吾 あ、お構いなく. . .
ちえ 遠慮せんでええし。
美恵子 じゃあ冷たいので. . .
ちえ はい。

再び、美恵子は台所に姿を消す。

若菜 ノート焼いたん?
彰吾 焼くほど鬼にはなれなかったわ。とりあえず、若菜の事書くのは、やめろ言うとしたし。
若菜 . . .
彰吾 若菜も親父も『みんなちがってみんない』 (引用: 金子みすゞ「私と小鳥と鈴と」1924) ってコトや。
若菜 みつるやめて。

彰吾 みつるじゃない。みつを。相田みつをや。
みつるもみつをもやめて。

若菜 みすゞ……。金子みすゞちやうかな……。『みんなちがってみんないい』

(引用：金子みすゞ)。

二人 (思い出して) あー。

彰吾 詩、詳しいな。

ちえ 今、サークルで詩やってて。

二人 あー。

彰吾 写真サークルで？

ちえ なんか、詩を写真にのせるフォトコンテストがあつて。や、でも詩ムズ

くない？ ムズくてき。部費で詩の先生呼ぼうって、先生探してるくら

いやし。今日、自分の事、詩人って名乗る人、初めて会った。

彰吾 あー、オヤジ。

ちえ っていうレベルやし。

若菜は部屋へ戻る。

彰吾 オヤジに頼んだろか？ 詩の先生。

ちえ え？

彰吾 あいつ一応、14くらいから詩人やし。

ちえ プロの詩人さんなん？

彰吾 普段はタクシーの運ちゃんやってんねんけど、そのかたわら詩をやって

て。全然、俺、頼むのは頼めんで……？

ちえ あのさ……。ちやうねん。ちよつと話があんねん。

彰吾 なになに。

ちえ 外で(話を)せえへん？

彰吾 ここでええやん。

美恵子がお茶を持ってくる。

ちえ 今日で会うの最後にしたいねん？

美恵子 ……。

ちえ ……ごめん。今日、別れ話しかつただけやし。

美恵子はお茶を出さずに引き下がる。

ちえ だから、そういうの、お願いできる立場にもないし。

彰吾 別れたってこと？

ちえ うん。

彰吾 なんで？

ちえ もう気持ちがない。

彰吾 誰に？

ちえ 彰吾以外誰おんねん。おもしろいこと言いよるわ。

彰吾

ちえ

彰吾 ・・ごめん。

ちえ ・・わかった。別れるんはいいけど、オレ死ぬで。

彰吾 もおおー、またこのパターンや。

ちえ オレ、ちえと別れたら、生きてる意味ないもん。ちえと別れた先に世界

ちえ なんてないもん。

彰吾 あるよ。

ちえ あと実家でこういう話やめてよ。

彰吾 だから外でしよって言うたやん！

ちえ お茶入れてくれたはるから・・待つて。落ち着いて。

彰吾 ・・。

ちえ ちやうやん。オレ悪いとこ直してる途中やん。ちえに言われたコト直し

彰吾 てる最中やから・・。

ちえ ・・そやな。ちよつとずつ直してくれてるのはわかってるよ。

彰吾 一個ずつしか直せへんからさ・・道半ばで、終わりにすんのって・・。

ちえ オレ今、道半ばやから・・お願いやし、もう少し様子見てよ・・。

彰吾 いきなり全部は無理やから。だって・・『にんげんだもの』(引用：相田みつ

ちえ を「にんげんだもの」1984)。

彰吾 ふぎけてる？

ちえ ふぎけてない。

彰吾 他、ずつと直ってないのわかってる？

ちえ 全部直す。

彰吾 ・・どこかわかってる？

ちえ だから・・それはコミュニケーションとっていききたい。とれてなかつ

彰吾 た・・俺、この命、ちえに捧げるつもりで頑張るし。

ちえ ・・あかん気がする・・。

彰吾 直す。全部言って。こつから「彰吾：2.0」でいくから。

ちえ こういう真面目な話してる時にふぎげんのもイヤなんやけど。

彰吾 ふぎけてない。

ちえ なんなん？ 「彰吾：2.0」って。ふぎげてるやん。さっきも『にん

げんだもの』(引用：相田みつ)とか、ふぎげてるやろっ。

彰吾　ごめん・直す。
ちえ　もう何回も同じこと言わさんといしてほしい。
彰吾　わかった。
ちえ　・・・ほんま？
彰吾　がんばる。
ちえ　・・じゃあ、もう少しだけ様子みるけど。
彰吾　ありがとう。
ちえ　あと一週間な。
彰吾　短いつて。半年くらいかかるって。
ちえ　長い。
彰吾　そのくらいかかるって。
ちえ　じゃあ、来月末。

しばし間。

彰吾　・・わかった。
ちえ　もうそれで直ってなかったら別れるし。
彰吾　死ぬ気でがんばる。その代わりちえもコミュニケーションしつかりとる努力してな。
ちえ　・・・わかった。
彰吾　おっけ。(握手をしようと手を差し出す。)
ちえ　(なんとなく握手しつつ) 何の握手やねん・・。
彰吾　・・・。オヤジ！
良晴の声　ん？
彰吾　詩って教えられる？
良晴の声　え？
彰吾　詩！
ちえ　いいって。
彰吾　俺に任せとけ。オヤジあんな・・。(と部屋を出る)
ちえ　・・・。
美恵子　(お茶をもって現れ) どうぞ。
ちえ　ありがとうございます。
美恵子　詩、教えてもらうの？
ちえ　あ、いや・・どうなんですかね。わかんないです。
美恵子　あ。犯人・・この人やったんや。・・やっぱり男女の恋愛のもつれで、人殺してまうんやな。あ、別に深い意味はないよ。ドラマの話ね。
ちえ　・・はい。

二人、なんとなく笑う。

美恵子 あのさ、よかったら・・飲みに行かへん。
ちえ え？

【3】公園

夜。【1】と同じ公園の近く。

田口はじめ（以下、田口）と木本なぎさ（以下、なぎさ）がいる。

田口 えー完全に見失いましたね。ちえちゃん大丈夫かな・・。

なぎさ 大丈夫やろ。ちえも相手の人もオトナ同士やし。

田口 いや、でも男の方、逆上しちゃうパターンありますからね・・。逆上するヤツ、法律とか倫理観とかぶっ壊れますからね。

なぎさ そんな怖い人なん？

田口 腕つぶしだけは強いらしいです。あっち見て来てもらっていいですか？
僕この辺におるんで。

なぎさ ・・そろそろ、うち帰っていいかな。明日朝からバイトやし。

田口 でも、ちえちゃんのライン既読ついてないんで。

なぎさ ・・。

田口 ちえちゃん優しいから心配なんすよね・・。男って女性の優しさにつけ込むバカ多いんで。

なぎさ 見つけてどうしたいん？

田口 見つけて、もし、ちえちゃんと別れてなかったら、（シャドーボクシングをしながら）男の方ごうですよ。こうして、こうです。もしくはこうです。血のお祭りですよ。

なぎさ ・・こんなんして、こじもも怒らへん？

田口 なんですか？

なぎさ 田口くん、ずっと、ちえ、ちえ、言うてるし。ちえのこと好きなん？ ・・って彼女やったらなるんちゃうかな。

田口 なぎささん。僕ら仲間じゃないですか。これは仲間が仲間を守ろうとしてるだけです。

なぎさ 自分一回生のころ、ちえに告白したんちゃうん？

田口 え？ いや、・・え？ なんすかそれ。

なぎさ 女子の口の軽きナメたらあかんで。

田口 もうだから女子イヤなんすよね。え？ こじももは知ってるんですか？

なぎさ
女子って空気も読めるから。こじももは知らん。
田口
や、あの。ちゃうんすよ、アレ、飲み会のノリみたいなやつでペロッて言うただけで。ちえちゃんは仲間です。仲間。仲間が悪と戦ってるから守りたいだけで。

小島ももこ(以下、ももこ)が息を切らし走ってくる。

ももこ
結構、周り見てきたけど・・・もう違う場所に行ったんじゃないかな？
この公園で話すって言うてたから、そう遠くには行ってないと思うけど・・・。
田口
じゃあ、こじもも、あっちも見てきてもらっていい？ まだこの辺おるとおもうし。
ももこ
なぎささん時間大丈夫ですか？ 明日朝からバイトですよ。
なぎさ
もう帰る。
ももこ
じゃあ、おつかれた。田口くん、あっちみてくる。

ももこは、走って行く。

なぎさ
こじもも・・・どういう気持ちで、ちえのこと探してるんやろ。
田口
こじももも、明日朝6時からバイトなんですよね。
なぎさ
・・・なんや。
田口
いえ。
なぎさ
なんや。
田口
すいません。
なぎさ
それはなんのすいませんや。
田口
お疲れ様でした。・・・どうぞ。
なぎさ
・・・うちあっち探してくるわ。
田口
あぎーす。

なぎさが探しにいく。

ももこが走り込んでくる。

ももこ
田口くん、田口くん、ちえからラインきてる。
田口
ほんま？ なんてなんて？
ももこ
(画面を見せて) 詩人の先生が見つかったらしい・・・。
田口
・・・別れ話は？
ももこ
さあ。

田口 電話して電話して。
ももこ う、うん。(電話をかけて)あ、もしもし。ごめん急に電話して。今、

大丈夫? や、今日話しにいくっていうてたやんか・・・や、例の男に・・・どうなったかなーとおもって。心配でさ。・・・田口くん? おる。なぎさんはさつきまで一緒やった。まどかさんは、明日のプレゼンの準備してはるから来てない・・・よかったら合流せん? ...あ、そっか。うん。また、わかった。はい。(電話を切る)

田口 なんて?

ももこ また話するって。

田口 どこおるって?

ももこ 聞いてない。

田口 こじもも。もっかい電話して。

ももこ あのさー。二人の時はこじももじゃなくて下の名前で呼んでほしいなあ。

田口 まだ、なぎさんはんねん。

ももこ アー・・・

田口 探しに行ってくれたはる・・・ももこ。

ももこ やめてやめて。なぎさんおるんやったらやめて。

田口 照れんなよ。かわいいなあ。

ももこ やめろやめろ。

田口 なあ。ももこ。お願いがあんねん。

ももこ なに?

田口 もう一回、ちえちゃんに電話してくれへん?

ももこ えー。ご飯食べて帰ろうよー。お腹空いたー。ちえもちえでやっとなるて。

田口 もしかしたら監禁されてて言わされてたかもやし。

ももこ 自分で電話しーやー。

田口 お願い。

そこへ、通りがかる美恵子とちえ。

ちえ なにしてんの・・・。

田口 ちえちゃん・・・。

ちえ (美恵子に) 写真サークルの・・・。

美恵子 ああ。

ちえ えーつとなんて説明したらいいかな。・・・言っってた例の人のお父さんの奥さんの美恵子さん。

美恵子 こんばんは。

ちえ　　なんで二人おるんよ。
ももこ　例の男と、この公園で話す言うてたし、田口くんが心配して
田口　　どうなった・・・？
ちえ　　また話する。今から飲み連れて行ってもらうことになってて。
田口　　どういう・・・？
ちえ　　別に普通に飲みに行こつて言われて。
田口　　どこおつたん？
ちえ　　どこつて、その人の家お邪魔しててん。
田口　　そういう話は、家が一番あかんつていうたやん。
ももこ　田口くんどんだけ首突つ込むん。
ちえ　　もう行くな。
田口　　・・・。
ちえ　　（美恵子に）すいません。
美恵子　大丈夫？
ちえ　　（二人に）じゃあ、また。

美恵子とちえは、立ち去る。

ももこ　首突つ込みすぎ。
田口　　・・・。
ももこ　や、もうなんか。ちえのこと好きなん。
田口　　仲間やん。
ももこ　・・・。
田口　　え？　なに？
ももこ　いいよ。疑つてないし。焦らんでも。
田口　　あの人、その男のお母さんつてこと・・・？
ももこ　若かつたな。
田口　　ちえちゃん・・・中学生と付き合ってる・・・？

しばし間。

ももこ　・・・また話聞こ。な。
田口　　うん。
ももこ　詩人見つかつたのもよーわからんし。
田口　　・・・別れるんつてそんなむずかしいんかな・・・。
ももこ　結婚より離婚のほうが、難しい世の中やし。
田口　　別れるコツが知りたい。

ももこ あのさー、それ彼女の前でやめてくれる。
ちやうで。ももこと別れたいかじやないから。え？ 嫉妬してるん？
田口 え？ なんや。お前かわいいやつぢやなあ。
ももこ お前言うな。かわいいかわいい言うケド、全然嬉しくないし。顔褒めら
れるより、性格とかで褒められたいし。
田口 全く嬉しくないわけではないやろ。
ももこ そりゃ嬉しいは嬉しいけど。
なぎさ (戻ってくる)
田口 なんやねん。かわいいヤツやなー。
ももこ もー、言葉が安くなっていくからやめてー。
田口 かわいいー。
ももこ 安なるー。
田口 (なぎさに) いつからいたんですか。
なぎさ 私しか探してないやん。
ももこ あ。さつき、ちえに会いました。
田口 なんか飲みに行くって。詩人も見つかったって。明日バイト頑張ってく
ださい。
なぎさ こじもももバイト頑張って。
ももこ ありがとうございます。

なぎさは去る。

ももこ 見られたかな。
田口 わからん。
ももこ ・・もー田口くんがわるいー。
田口 ももこがかわいすぎるのが悪い。
ももこ 安い安い。
田口 じゃあ、(抱き合おうの意で)ぎゅーしよか。
ももこ ・・ちよつとだけな。

二人は抱き合おつと近づく。 なぎさは戻ってきていた。 それに気づいて離れる二人。

なぎさ あのさ、明日って部屋おつたらええんかな？
田口 わかんないですね。
なぎさ まどかから連絡ないしさ。

田口 まどかさん、明日のプレゼンの準備してるんじゃないんですか。
なぎさ プレゼン？

田口 なんか同人誌の。

なぎさ 同人誌？

ももこ まどかさんがやってくれてるんで、わかんないですね。

なぎさ またコンテスト出すん？

田口 まどかさんがやってるんで。

なぎさ まどかまたオーバーワークしてんちゃうん。

二人 ああ。

なぎさ あと・・・自由やけどさ・・・外でさ・・・高校生ちゃうんやから・・・と思う

ケド・・・。

田口 あの・・・コレ誰かにいいます？

なぎさ ・・・・邪魔しました。

なぎさが去る。

ももこ ・・・・気まず。

田口 インスタのストーリーに文字だけで投稿される・・・。

ももこ やっぱ明日朝6時やし、帰ろかなー。

田口 えー。

ももこ 明日も会えるし。

田口とももこは、二人は夜に消えていく。

【4】同人誌「夕映えのゆくえ」

大学の教室。机と椅子が並んでいる。

大森まどか（以下、まどか）がノートパソコンを操作している。

職員の原ユキエ（以下、原）と柘サトミ（以下、柘）が、その画面を
のぞき込み、

原 （デスクトップを指さし）これ、写真サークルのメンバーさん？

まどか はい。

原 これの誰と誰が付き合ってるの？

まどか え？

原 あ、最近はこういうのも聞いたらあかんねんな。

まどか 全然大丈夫ですけど。

柘 (携帯を見せて) 原さん。

?

まどか

ちよつとファイルが整理出来てなくて・少々お待ちください・。

原

(柘の携帯を見て) うわ! うわつて言うてもうたわ。私ですわ。すい

ません。「次、会議いつですか」ってメール来てたから、一応、今日、あること送っちゃって・なんかごめんなさい。

柘

原さん・。

原

柘さん。なんかごめん。(まどかに) 吉村さんって人来はるけど、全然

大丈夫な人やし。

まどか

はい。私の方は準備できたんですけど・。

柘

ほな見してもらいましょか。写真サークルの方々の文学作品を。

まどか

いや、そんな大した作品ではないんですけど・いきますね。

**まどかはパソコンで部員たちの作品(*2)を次々と見せていく。
それを見る柘と原。**

まどか

こんな感じで写真に言葉をのせるっていうのをいくつか作ったんですけど・。「写真と詩」を組み合わせたフォトコンテストがあつて、そのとき作ったんですけど・。

柘

いくつか権利危なそうなんあるし、それさえ避けてもらえたら大丈夫や思うわ。

まどか

了解です。ありがとうございます。

柘

うちの同人誌は、石黒先生つてわかるかな? 人文学科の教授さんと、大学職員の有志で作つてて、コレ書いてはる人が文学と信じてはるものならなんでも大丈夫つてスタンスの同人誌やしなんでもええんやけど・。掲載はカラーのほうがいいよね。

・。できるなら。

柘

カラーやんねえ・。(パソコンで調べる)

原

今回、最終号やし、巻頭カラーええんちやいます?

柘

カラーやつたらちゃんと印刷所に入稿したいもんなあ。今までみたいに前日にキンコース駆け込むとか、しんどいしねえ。

原

キンコースな。

まどか

キンコース?

原

(まどかに) 知らんか? キンコース? 24時間印刷できるところなんやけど、そこで搬入時間ギリギリまで印刷してホッチキス止めしがちで・。

柘

(同人誌のバックナンバーを鞆から出して) これも前日。これも前日。

「こ」最近の号は、ほぼ前日やね。

吉村さんの件があつたしねえ・・・。

吉村・・・。

今回、文学フリマに出すんやったら余計スケジュールシビアやもんね。

(まどかに) 文学フリマってわかる？

コミケみたいな・・・？

そうコミケの文学版みたいな。

なんかノリは、はい。

巻頭カラーとか、他のサークルさんビビるやろね・・・。

ええんちやいます？ 編集者さんも気になって喋りかけて来てくれますよ。

全然、キンコーズとか手伝いますんで。

柘 前日キンコーズは避けたい。あれは寿命縮める。もしかしたら売子とかお願いするかも。

まどか なんでもします。

柘 ほな写真サークルの方々は、何ページくらい欲しいかな・・・？

まどか いただけるなら何ページでも・・・今、決めたほうがいいですよね・・・。

柘 一応希望だけ伝えてもらって、予算関わるし、ある程度相談にはなるやろうけど。

まどか ・・じゃあ、部室に部員何人がいたんで、一旦、聞いてきてもいいですか？

原 あー、うん。

まどか すぐ戻ります。

まどかは教室を出る。

柘 じゃあ、うちのページ数決めちゃいましょか。吉村さん来はる前に。

原 柘さん。その前にちよっとアイデアあるんですけど・・・吉村さんの状況を聞く前提なんですけど・・・吉村さん今回掲載見送ってもらおう方向に持って行けへんかな・・・？

柘 ・・一回吉村さんの状況聞いてからやんな。

原 もちろん。

柘 割と同じコト考えてた。

原 柘 もちろん状況聞いてからなんで、吉村さんが既に作品があらはるって言いはるんやったら掲載してもらったらええし。

柘 ただ吉村さん、よお来はるなあ思ってた。

原 笑顔って口角あげたら笑顔になるそうですよ。

柘 (口角あげて) みんなのページ数だけ決めたら今日終わりましよ。

吉村アヤ(以下、吉村) 入って来るなり、

吉村 あ、どうぞどうぞ続けてください。

原 ・・・。吉村さん、こんにちは。

吉村 いやあお久しぶりです。私、元気です。

柘 元気そうやね。

吉村 今日、原さんに教えてもらって。

柘 遅ならはったケド、よかった。来てくれはって。

吉村 学生さんのキャリア相談受けてたら遅くなっちゃって。ごめんなさいね。

今回、最終号つてことで、図々しいかもしれんケド、すいません、お邪魔させてもらいます。これみなさんよかったら食べてください。

吉村は、持ってきたお菓子を開けて机に広げていく。

二人 ・・・(口々に)ありがとうございます・・。

吉村 お2人？

原 2人だけになっちゃって。

吉村 いいですねえ、石黒先生いなくなつて順調に人減ってますね。

原 ハハ。

二人 ハハハハ。

吉村 あ、コーヒーいりますね。コーヒー買ってきます。すぐ戻ります。

吉村はコーヒーを買いに出る。

原 裏切らないっすねえ。

柘 いつも通りで逆に燃えてきましたわ。

原 戻つてきはつたら即締め切り伝えましょ。

柘 でも私の中で吉村さん降りてもらおう事、やぶさかではないですけどね。

原 まあまあ。状況聞いてからで・・。

吉村戻ってくる。手には3人分の缶コーヒー。

吉村 ブラックでもよかったですか？

二人 ・・・。

吉村 (缶コーヒーを机に置いて) どうぞよかったですら。

原 全然お気遣いなくです。
吉村 全然持つて帰ってもらってもいいんで。さてと・・・お待たせいたしました。開口一番、誰がいきます？
原 あのー、・・・吉村さん最終号の締め切りなんですけど・・・来月末です。
吉村 りよーかい、です。

吉村は、スケジュール帳に書き込む。
原と柊は、黙って見ている。

吉村 ？

原 ・・・・で、あとページの割りだけ決めたら今日は解散でもいいかなと思
うんですが。

柊 私、10ページもらえたら。

原 あれですか？ モルタニア王国の。

柊 今回ついに最終回です。

原 裏切り者だれですか？ 今回。

柊 お楽しみに。原さんは？ 動物エッセイ？

原 私は・・・動物エッセイで、10ページほどもらえたら。「そんなことア
ルマジロ」っていうタイトルで。

柊 もう面白い。

原 やめてまだ書いてないからー。じゃあ・・・10ページ、10ページ、吉
村さん・・・どうされます？

柊 そーですすねえ・・・20ページ位もらえたら嬉しいです。
20。

吉村 今、長めの小説書いてて。それ載せられたら。

柊 ・・・・

柊 結構、今、長い構想期間からようやく解放されそうで。

原 ・・・・

原 締め切りは大丈夫ですか？

吉村 来月末でしょ。

原 書いてはるんですか？

吉村 まあ書けば。体の中にはあるんで。

しばし間。

原

・・・。ちょっと、もう言いますね。こんなん言うのアレですけど・・・吉
村さん信用できないんです。前も15ページ枠とって穴開けはったやな

柘 当り前やる。

原 吉村さんが難しそうやったら掲載見送ってもらおかって話もしてたんで、でも、ひとついいですか？ 私、締め切り守るのも大事ですけど、読者との約束を守るのも大事や思うんです。締め切りはココ（柘と原）との約束じゃないですか。そりゃ守れるなら、守ったほうがいいですけど、読者の期待を裏切るような作品で、締め切り守ったかって誰が喜ぶんですか？

原 締め切りよりも読者が大事やと・・・。

吉村 まあ、有り体に言えば。

原 ・・でしたら、ご自身でなさるのはどうです？ 別に一緒にやらんでも・・・できはるやろし。

吉村 そんな拒否せんでも。私も別に他で出来ますよ。出来ますけど、この同人誌には思い入れあるし。石黒先生病気ならはって、こんだけになって、最終号やし。私なりに力になりたいんです。

柘 みんなちゃんと約束まもってくれてはります。

吉村 でも前回読みましたけど原さんのエッセイってアレ（言いかけて）・・・や、あんまり傷つけてもアレやし・・・言葉選んで言いますと・・・や、やめといたほうがええかな。

原 じゃあ、やめといてください。

吉村 でも原さんのための思っていますけど・・・アレ、あんなんでもいいんですか？ あんなんウィキペディアみてるほうがおもしろいでしょ。締め切り守るだけやったら誰でもできるんですよ。それだけじゃなくて、大事なのは、読んでくれる人なわけですよ。そっちを大事に出来ひんくて、なにが文学ですか？！

原 ・・今回ね、吉村さん。締め切り守って欲しいのはね、写真サークルの子らも掲載したいって。先生からの紹介で。巻頭カラーでいくかもしれんからね。

吉村 学生？

原 うちの学生の。

吉村 学生はダメでしょ。学生って・・・学生？ 日本の学生でしょ？ 学生か。

原 ・・なんですか。

吉村 （学生の）ページ数は？

原 今確認中ですけど。

吉村 私、一応、立ち上げメンバーの一人として言わせてもらおうと学生が、ページつかうのってどうなんやろ。しかも最終号で。

原 でも、もう作品もあらはるし。

でも学生でしょ。

写真に詩？ ポエム？ 格言みたいなものせてはって。

でも学生でしょ。

学生さんやけど、もう作品もあらはるし。

でも学生でしょ。

椅子を持ち上げ、吉村に投げよつとする原。止める柘。

吉村 暴力。暴力ってことは、学生が学生であることを認めたってことです

よ！

学生とか職員とか関係ないからな！

吉村 大きい声やめてー。これ録音して写真撮って訴訟起こしたら、私勝っちゃうじゃないですかー。嫌や。原さんとそんななるん。

まあまあ。

・。

原 吉村 仲良くやりましょー。すいません。私、原さんの作品ことウイキペディアのほうで面白いとか言って。

柘 原さん落ち着きましょ。原さんが悪くなるから。・吉村さんもね、わかってほしいんです。アナタの原稿を待ってたがために、前日にキンコーズ行つて真夜中にホッチキス止めしてたこと。

なんかすいません。

なんかじゃないんです。

ごめんなさい。

柘 吉村 吉村さんのこだわりとか、想いとか、あると思うんですけど、

(遮って) ちゃうんすよ。

柘 一回最後まで聞いてもらつていいですか？ 今回、カラーで入稿する可能性あるんで、

(遮って) いやね、

柘 一回、最後まで聞いてください。その場合、締め切り少し早まりますので、ご注意ください。またメールします。以上です。・。なにかあればどうぞ。

吉村 いやね、締め切り守らないとは言つてないです。守ります。今回、秘策もあるんで。

柘 秘策……。一応聞きましたよか。

吉村 小説書くんですけど、締め切り遅れそうやなーっておもったら、最悪、詩でいきますわ。

柘 え？

吉村

詩。

柊

詩？

吉村

ハイ、詩で。

柊

え？ 詩舐めてはります？

吉村

舐めてないですよ。詩は短いんで。

柊

え？ 詩、舐めてはりますよね？

吉村

舐めてないですって。舐めて味します？ 味しないもん舐めないでしょ、

普通。

柊

・・わかりました。とりあえず作品出してください。作品を出さない作

家は作家じゃないんで。

吉村

それは柊さんが作家かどうか決めるんじゃないんで・・私が決めるんで。

柊

・・ですよー。

一同

(おかしくなり) ハハハハ。・・ハア。

吉村

・・丸くまとまりましたね。

原

じゃあ、来月末、PDFで、20ページ。お願いします。詩でも小説で

も。その時に。

吉村

頑張ります。

原

もう体の中にあらはるんやったら、大丈夫や思うんで。

吉村

珠玉があるので。体の中に珠玉の小説あるんで。

原

珠玉があるんですってー。

柊

楽しみー。

原

えーはやく読みたいー。

吉村

まあまあ、お待ちください。

原

じゃあ解散。

吉村

片付け手伝いますよ。

原

いい。いい。私たちでやるし、一刻も早く執筆頑張らはったら？

柊

ちよつとタバコ吸ってきます。

原

あ、私も吸わへんけど、ちよつと外の空気吸って来よかな。もう吉村さ

ん、解散してくれはっていいよ。

原と柊は外へ。

吉村、携帯電話を自分に向け自撮りを始める。

まどか入ってくる。

吉村

執筆初日、がんばります。

まどかのは、自撮りする吉村を見て教室を出る。

吉村 …うち、がんばらなな。

また、まどか入ってきて、

まどか こんにちは…。

吉村 こんにちは。えっと…。

まどか 写真サークルの者なんですけど…今回「夕映えのゆくえ」の最終号掲載の件で…。

吉村 はいはいはい。聞いてます、聞いてます。学生さんね。立ち上げメンバ

まどか ーで普段は教務課のキャリアデザインセンターにいます吉村です。

まどか 写真サークルの大森です。

吉村 自分らページ数決まった？

まどか 一応、部室にいた部員に聞いて来たんですけど…ちよつとわかんなくて…。

吉村 締め切り来月末やで。はよ決めてくれな。

まどか はい。

吉村 自分ら学生かもしれないけど、締め切りちゃんと守らなあかんで。みんなで一緒に作ってる同人誌やから。

まどか 頑張ります。

吉村 「頑張ります」って魔法の言葉やし、気を付けや。言えばいいってもんじゃないから。行動で示してな。

まどか 気を付けます。

吉村 で？ 何ページいく？ 10ページ。どや。

まどか 10ページ…。はい！ その枠で頑張ります。

吉村 また頑張ります言うてるやん。

まどか あー、すいません。

吉村 いい、いい。まだ学生さんやしな。社会でる前にうちに出会っというて良かったな。

まどか ありがとうございます。勉強になります。

吉村 一回、作品みせてもろていい？

まどかはパソコンで部員たちの作品(*´)をみせる。

まどか っっていう感じで。

吉村 はいはいはい。わかりました。「映え」写真やね。

まどか ありがとうございます。

吉村 あ、褒めてないです。
まどか あ、すいません。

吉村 私わかりました。すべて把握しました。正直言っつていい？
まどか はい。

吉村 おしい。おしいわ。チョチョチョツと言葉磨いたら良くなんの。
まどか ・・？

吉村 言葉の服を脱がして、言葉磨くねん。わかるか？
まどか ・・？

吉村 もしあれやったら、写真サークルの子らに、詩、教えにいったらか？
まどか え？ イイんですか？

吉村 まあ、全然ええよ。詩は専門外やけど、文学やるときに詩は絶対に通るから。

まどか 私から今の伝えるの自信なかったんで、助かります。今日詩人の方に来てもらって色々レクチャーしてもらおう予定だったんで。

吉村 詩人？ プロ？
まどか わかんないですね。

吉村 滅多なこと言われへんかもしれんけど、全然行っつてあげるわ。
まどか みんな詩のことあんまりわからず書いてたんで、助かります。短い分、簡単に出来るかなあっつて感じだったんで。

吉村 え？ 詩、舐めてはる？
まどか 舐めてないです。

吉村 詩は短い言葉やけど、その人の全てやから。
まどか 早く出会いたかったです。

吉村 やろ。(よく言われるの意で) よう言われる。

柊と原戻っつてくる。

柊・原 ・・・。

吉村 お帰りなさい。学生さんの希望ページ数決まりました。 ・ ・ (まどかに)
まどか ハイ、どうぞ。

吉村 10ページいただけたら ・ ・ 。
まどか こういうのちゃんと自分から言わなあかんで。一緒にもの作るつてスピード勝負やし。

まどか はい。

吉村 締め切り来月末やし。遅れんように。

原 ・ ・ でもね、吉村さんとか我々と違って、もう出来てはるもんね。
まどか あ、でも、これ変わりそうで ・ ・ 今、吉村さんにいろいろアドバイスも

らって。

柊・原

・。。

吉村 あと、学生さんと話とかなあかんことあります？ また予算だけ組んで
もろて連絡もらえる形で大丈夫ですよ？

原

・。ええ。

吉村 よし、部室案内してくれ。

まどか

はい！

吉村

ちよつと今から写真サークルの子らにアドバイスしに行くことになつち
やつて。ちよつと次の次の作品で写真サークルのコト書きたかつたんで、
リサーチついでにちよつと行ってきますわ。

原

吉村さん次の次より、今、この同人誌の締め切りは大丈夫そうなんです
か？

吉村

まあ、もう体の中に珠玉のはあるんで。大丈夫つす。あと出すだけなん
で。

原

先そつちやはつたら？

吉村

すみません。体ひとつなんで、先、リサーチ行きますわ。(去る)

柊

吉村さん。締め切り・落とさんようにね。

吉村

お互いに。

まどかと吉村は部室へ向かう。

二人

。。

原

吉村さん・。絶対にしめきり落とすパターンですね。。

二人

。。

原

私らちよつと多めに作品書いときませんか？ 20ページ穴あく前提で。

原

エッセイ一本多めに書きます。

柊

私も多めに書きます。

原

なんか疲れましたね。

柊

吉村、不安や。

原

学生さんもね。まあ「夕映えのゆくえ」最終号ですし。来月には終わっ

二人

てますし。頑張りますし。

二人

頑張りますし。

【5】部室

良晴

(一眼レフカメラのファインダーを覗いている)

なぎさ

(シャッターボタンを)半押しで、グ。

良晴 半押しで、グ。

カメラのフォーカスが合わさり、シャッターが下りる。

良晴 おお。

写真サークルの部屋で、なぎさが良晴にカメラの操作を教えている。
ちえと彰吾もいる。

彰吾はちえのカメラを弄っている。

ちえ (良晴に) 今日ありがとうございます。

良晴 もうカメラに夢中で。

なぎさ あれやったら、ちょっと外いって撮ってみます？

良晴 いいんですか？

なぎさ まだ、みんな来ないんで。

フィルムの頃しか知らんから、凄いねえ。

なぎさと良晴はカメラを持って外へ出る。

彰吾 (カメラ弄りつつ) ええカメラ持ってるんやな。

勝手に触らんといて。

(ちえにカメラを向ける)

やめて。

一枚。

やめて。何回も言わさんといて。

一枚、一枚。

・・・。

ごめん。

あのさ、やっぱり無理かも。

なんでよお。

だって、やめてって言うてのにやめてくれへんやん。うち何回言った？

同じこと何回も言わさんといてって言うてるやん。一回で理解してよ。

全部直すって言うたやん？ 違う？

ちやうやん。冗談やん。

冗談なん？ じゃあ今の何が面白かったん？ 説明してよ。

ごめんって。

冗談なんやろ。どこが面白かったか説明してよ。

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾

ちえ

彰吾　ごめんなさい。

ちえ、カメラを返せと言わんばかりに手を出す。
彰吾はカメラを返す。指紋だらけのカメラを拭くちえ。
彰吾が近づいて手伝おうとするが、

ちえ　・離れて。

彰吾　・・・。

まどかと吉村入ってくる。

吉村　うわあ部室のおいするわあ。初めて入るわあ。

まどか　どうぞ、どうぞ。

吉村　どうも。これで写真サークル全員？

まどか　まだ、あと三人いて・・。

吉村　全員揃ったら自己紹介するわな。何回もするのアレやし。

まどか　はい。すいません。お忙しい中来ていただいて。

吉村　いい。いい。うちも締め切りあるし、あんま長居できひんけど。

彰吾　こんにちは。

まどか　こんにちは。（彰吾が誰かと聞くように）ちえの？（察して）ああ。

ちえ　まあ、うん。

まどか　みんなは？

ちえ　なぎささんは詩人と外にいかはって田口くんともここは中庭で二人で写

真撮ってます。

吉村　なんやグダグダやないか。

まどか　吉村さん、座ってください。

吉村　悪いな。

ちえ　呼んで来ましょうか。

まどか　あ、いい。いい。私行くから。みんな行き違いになっちゃうとあれだし。
すぐ戻ります。

まどかは外へ。

吉村　みんな揃ったら自己紹介するし。何回もするんあれやろ。二人とも写真サークルか？

ちえ　私は、そうですけど、彼は違います。

吉村　部外者か？

彰吾　彼氏です。

ちえ 違います。
吉村 どっち。
彰吾 彼氏です。
ちえ 触らんといて。
彰吾 なんでなん？
吉村 なんや盛り上がつとんな。
彰吾 親父に頭下げて連れてきたのになんなん？
ちえ そういふところも嫌。とりあえず謝つといたらええんちゃうん？

田口とももこ入って来て、

田口 (カメラのモニターを確認しながら) ええやん。
ももこ ブレてるやん。
田口 ブレてる？
ももこズームしてみいや。
田口 わからんって。
ももこ (吉村に) あ、こんにちは。
吉村 みんな揃ったら自己紹介するし。ちょっと待っててな。
田口 えっと・・。
彰吾 ちえがお世話になっております。ちえとお付き合ってる秋山です。
田口 ・・コイツか。
彰吾 あ？
田口 ちえちゃん、コイツやんな。
彰吾 お前コイツって誰の事言ってるねん。
田口 会いたかったわ。お前、秋山彰吾やろ。表出ろ。
彰吾 お前、誰やねん？
田口 はじめや。
彰吾 知らん。
田口 田口はじめや。
彰吾 知らん。
田口 そらそうやろなあ。コッチは全部知ってるねん。
彰吾 ちえ、誰なんこいつ？
田口 コッチ見ろや！
彰吾 なに？ 喧嘩する？
田口 おお。そのつもりや。
彰吾 オラア (拳を田口の顔面に寸止めする)
田口 (怯えて) あああ。

彰吾 めっちゃビビってるやん。

田口 ビビってないし・・・ちえちゃんとは別れるか、痛い目みるかどっちか選べ。

彰吾 おお。じゃあ、お前から手出して来いよ。そしたら、喧嘩やったるわ。

田口 なんやビビってんのか。先、手エ出して来いよ。

彰吾 ちえ、こいつなんなん。

ちえ 彰吾いいから一回外でよ。

田口 逃げんなよ！

彰吾 お前こそ逃げんなよ！ 表で待ってるからな！

ちえは彰吾を引つ張って外へ。

吉村は、カメラを向けている。

ももこ らしくないらしくない。田口君らしくない。

田口 ……。(椅子を持ち上げ、彰吾の去った方へ行こうとする)

ももこ あかんあかん。

田口 普通にやってもあいつには勝てへん。

ももこ 田口くん、落ち着いて。田口くん弱いんやから。

田口 弱くないし。

ももこ 弱い。体が弱い。スグ風邪とかひくやんか。私が話してくるし、田口くん、座ってて。
・・・。

田口

ももこは彰吾らを追いかけていく。

なぎさと良晴、外から戻ってくる。

田口 (吉村がカメラを向けていたので) 写真消してもらっていいですか！

田口は椅子をもって外へ。

吉村 動画やしな。今日は酒がうまいわー！

なぎさ なにがあつたんですか？

吉村 なんかいぎこぎがな。

なぎさ ちよっと様子見てきます。

なぎさは外へ。

部屋に吉村と良晴は、二人になる。

二人は、カメラを操作している。

しばし沈黙。
そして二人の目が合う。

吉村 写真サークルの方？

良晴 写真サークルの方？

吉村 私は違いますけど。

良晴 僕も違いますけど。

吉村 違うとは思いましたけど。これどういう状況？

良晴 今日、写真サークルで詩を教えてほしいって言われて来た秋山っていうんです。

吉村 あ、例の。詩の先生。

良晴 はい、一応。

吉村 詩人の。

良晴 まあ、普段はタクシー運転手してるんですけど。

吉村 ちよつと2、3聞きたいことあるんですけどいいですか？

良晴 はい。

吉村 詩、どうやって教えはるん？ 詩って教えられないじゃないですか。どうやって教えはるのかなと思って。

良晴 あー。でもみなさんがどういう詩を書かれるのかまだわからないので、とりあえず、皆さんに詩をみせていただいてから、いろいろ教えられそうなことがあれば、教えるというような感じですかね。

吉村 あなたの感覚でダメ出しするんですね。それはあなたの詩になりませんか？

良晴 え、まあ、ダメ出しというよりは、自信持っていいよってことが言っておげられたら・・・。

吉村 あかんあかん。そんなん、全部あなたの詩になるじゃないですか。すみません。どちらさんですか？

吉村 みんな揃ったら自己紹介します。何回も自己紹介しなあかんの面倒くさいし。もう一個イイ？ どのくらいの期間教えてくれはるん？

良晴 どのくらい・・・。今日だけですけど。

吉村 あかんわ・・・あかん。無責任やわ。教えるんやったら覚悟持って教えな。そんな中途半端に教えて、もしみんなが詩の事きらいになったらどうするん？ 詩という文学の失墜やで。教えるんやったら、時間かけて締め切りまで付き合いな。

良晴 と言われても・・・。

吉村 有給つかって来いよ。

良晴 有給って・・・。

吉村 タクシーの運ちゃんや言うてたな。勤め人か。
良晴 個人ですけど・・・。
吉村 ほな休めるな。
良晴 休めないっすよ。
吉村 リフレッシュ休暇とかないの？
良晴 あるわけないでしょ。
吉村 働き方改革せえよ。
良晴 無茶苦茶ですよ・・・。

まどか、ももこ、なぎさ、田口が戻ってくる。

まどか 時間ない中、きてくださってるのに・・・！みんな、なんなの？！今
日くらいまとまってよ！詩の先生も呼ぶだけ呼んでバラバラって・・・
もうヤダ。私バカみたいじゃん。

まどかは泣き出してしまっ。

泣き声だけが部屋に響き渡る。

吉村はまどかに近づく。

抱きしめる吉村。

一同 ……
まどか すいません。
吉村 いい。いい。泣いていいよ。
まどか 大丈夫です。
吉村 みんな。わかってる？泣いてる人がいます。それってどう思う？
田口 あのー。すいません。…誰なんですか？
吉村 みんなそろったんか？
まどか 1人いません。
吉村 全然自己紹介できひんやん！

【6】大学の廊下

原と柊が歩いている。

原は、大量の本を抱えている。

原 まあまあまあ。締め切りまでまだありますし。

柀 原 柀
それ・沼ですよ。
え？

柀 「締め切りまでまだある」って言葉、沼に足突っ込んだ人間の言うコトですよ。この世に面白い資料山ほどあるんで、ほどほどにしないと、どんどん沼にハマっていきますから・・・。
いや、でも・・・まだ一回立ち止まれる時期かなって・・・だからね・・・
柀さん・・・モルタニア王国なんですけど。私も思ってたこと言っているんですか。

柀 ・・お。私も沼に誘う気か。
柀 まだ立ち止まれる時期ですし。最終号やし。言いますね。
柀 いらんお節介やな・・・。

柀 ・沼一緒にハマりましょ？
柀 私は・・・いいかな。

柀 ・・わかりました。じゃあ、また順番と値段決めましょ。ほな、また。
柀 ・・やっぱり聞いとこかな・・・。
柀 聞きます？

柀 モルタニア王国のためにも。

柀 喫茶店行きましょか。

柀 長なりそう・・・？

柀 丁寧にお伝えします。

【7】 部室

吉村が、まどかとなぎさの詩を読んでいる。

田口ともも「は、窓の外で、夕暮れていく空を気にしている。」

吉村 詩が服着とる。

まどか 着飾るなっことでですか。

吉村 せや。

まどか (メモして)なるほど。

吉村 なぎさ。お前の良かったわ。粗削りやけど言葉の組み合わせがいい。

なぎさ マジっすか。

吉村 ああ。(なぎさの詩に対して)この「宇宙がとける空」ってのと「霧のトンネル町」とか。なかなかのセンスやぞ。

なぎさ 実は、コレ・AIに言葉食わせて、書いたんです。

吉村 日本語で喋ってくれ。

なぎさ AIに、キーワード入れたら、自動的に詩を書いてくれるんです。それ

をちよちよっと直して作ったんです。

吉村 あかんやないか。自分の力で書けよ。詩は、自分で書いてこそやる。

なぎさ 何がダメなんですか？

吉村 長なるけど、ええか？ あんな・・・、AIにリリースム無いねん。
一同 ？

吉村 例えば、もうすぐ夕焼けってきます。夕暮れます。イメージしてくださいね。夕日が沈みます。校舎とかグラウンドがバアアって夕映えて赤っぽくなります。どう思う？

まどか 綺麗だなあ。

吉村 はい。

田口 写真撮りたいなあ。

吉村 はい。

ももこ お腹空いたなあ。

吉村 はい。

なぎさ ・・綺麗やなあ。

吉村 まどかが言った。

なぎさ えー・・・赤いなあ。

吉村 このように、全員同じ景色をみてるのに出てきた言葉が違う。夕映えをみて、詩を産み出すためのモヤアとしたものがあるわけ。・・・それをリリースムと言います。それぞれ違う。同じものは無い。そのリリースム、AIあるか？

なぎさ それは必要ですか。

吉村 必要や。詩は心や。心が動いた時に、湧き出てくるリリースムにピッタリとくくる言葉を磨いて並べていくわけ。それが詩なのよ。
いやあー・・・

田口 (まどかに) そろそろマジックアワーなんですけど・・・

まどか あー。マジックアワーか。

吉村 なんやマジックアワーって。

田口 (外を見て) 刻一刻とマジックアワーが。

ももこ (外を見て) あーマジックアワーが。

まどか ・・じゃあマジックアワー行ってきて。

田口とももこは、カメラを持って外へ。

まどか すいません・・・まどまりなくて・・・

吉村 おい。マジックアワーってなんや。

まどか 夕焼けの一番キレイな時です。

吉村 … (スマホを出して) まどか、うちアイツらに言うてきたるわ。
まどか あ、はい。

吉村も外へ。

なぎさ …。

まどか なぎさは、なぎさの考えで書いたらいいと思うけど… 今回だけあの人の言う通り、自分で書いてみたら？

なぎさ 書いてるやん。

まどか や、今回だけAI無しで…。

なぎさ それって、電卓あるのに紙で計算しろ言うてるようなもんやん。スマホあるのに、のろし上げて連絡しろ言うてるようなもんやん。「0↓1」を産み出すのはAIに任せて、そこから創作してるだけやけど

まどか だからこそ、今回は、その「0↓1」の産みの苦しみ経験してみたら？ AIで出来るのには？

まどか AIで出来るのには？

なぎさ わざわざ？

まどか わざわざ。

なぎさ なんて？

まどか 物は試しで。

そもそもやけど、詩のサークルちゃうしな。写真サークルやしな。写真撮りたくて入ってきてるからな。楽できることは楽しいこようよ。

良晴入ってくる。

良晴 遅くなつてすいません。

まどか ありがとうございます。ちょっとみんなマジックアワーで出ちゃってて、すぐ戻ってくるので。

良晴 あー今日きれいですよねー。

なぎさ 先生…この詩(なぎさの詩)と、この詩(まどかの詩)…どっちがいいと思いますか？

良晴 え？ ちょっと読んでみてもいいですか…。

良晴は、まどかとなぎさの詩を渡される。

読み終えて、

良晴 あー…どっちもいいですけど…しいていうなら言葉選びが面白いこ

なぎさ　　うち(なぎさの詩)ですかね……。キツチリしすぎてる気もしますが。
まどか　　これ、AIで書いたんです。
なぎさ　　先生はAIの詩、どう思います？
良晴　　あー……。イイと思いますけどね。どんな方法でも、自分の感動にピツ
　　タリくる言葉が作れているなら、僕はアリだとおもいますので。
なぎさ　　まどか。AIで自分の詩が書ける時代が来てるのよ。
まどか　　来てんだなあ、未来。

田口とももこと吉村入ってくる。

吉村　　やっぱり二人付き合ってるんや。そんな気イしとったわ。うちそういう
　　のわかんねん。あとで、さっきのうちの写真送ってや。あー、おっさん
　　遅かったな。それAIで書いた詩やろ。AI情緒無いよな。なぎさお前
　　はこれがいいと思ってるやろ。あんな、お前には、もう川のせせらぎと
　　か鳥のさえずりとか、繊細なもんが感じれなくなっとんねん。感受性が
　　パチンコなっとんねん。
なぎさ　　パチンコ？

吉村　　パチンコみたいに音と光のビカビカーが無いと刺激足りひんくなっても
　　うてんねん。脳みそ溶けとんねん。麻薬や。薬やってるアーティストも
　　同じコト言うてるわ。コレがあつたら書けるって。ちやうか？
なぎさ　　でも最終、自分の感受性で微調整してるんで……。

吉村　　『自分の感受性くらい自分で守ればかものよ』(引用：茨城のり子「自分の感受
　　性」1977年)。

良晴　　茨木のり子さん。
吉村　　さすが、詩人。
なぎさ　　あの。どうでもいいんですけど……ずっとどなたなんですか？

吉村　　全員揃ったんかいな。
まどか　　まだあと一人……。
吉村　　全然自己紹介できひんやん！
ももこ　　名前だけでも……。
吉村　　何回も自己紹介せなあかんやん。
まどか　　ちえ今日どうしたの？
田口　　口内炎が痛いから休むそうです……。
吉村　　なんなん?! 口内炎で休むやつ。

リビング。

若菜が、良晴のノートを読んでいる。
床にも良晴のノートが散らかっている。

若菜

．．．

玄関が開く音がする。

やがて彰吾が入って来る。

若菜

．．．

彰吾

．．．また読んでんの。

若菜

．．．

彰吾

オヤジのやろ。傷つくのに読んでんの。

若菜

．．．いいやん。別に。

彰吾

今日ってさ、ずっと家おるん？

若菜

．．．

彰吾

たまにはお金出したるしカラオケでも行って来い。

彰吾は、千円札を若菜に差し出す。

若菜

は？

彰吾

いいから。たまには友達とカラオケ行ってこい。

若菜

(千円札を受け取る)

彰吾

．．．

若菜

(別のノートを開く)

彰吾

行けって。

若菜

行く。

彰吾

．．．

若菜

なに？

彰吾

行け。

若菜

．．．

彰吾

立て。

若菜

(寝転ぶ)

彰吾

あーもう(立たせる)

若菜

(また寝ころび)。

彰吾は、若菜を再び立たせ、玄関の方へ押しやる。

若菜は、外へ出る。
散らかったノートを片付ける彰吾。
若菜が戻ってくる。

若菜 はーそういうことな。
彰吾 戻ってくんなや。

若菜 ちえさん表おったんやけど。そういうことな。
彰吾 ・・・なにがや。

若菜 昨日、珍しく布団干してるなアと思ったら。そういうことな。
彰吾 ちゃうし。いいから行け。
若菜 誰もおらん実家でなにするん。
彰吾 ・・・。

若菜 下心やん・・下心丸出しやん。
彰吾 無いよ・・・あるよ。なんやねん。若菜さん。お兄さん真剣なんです。
情けないお願いやと思う。

若菜 頼む態度つてのがあるやろ。
彰吾 ・・・。
若菜 ちゃんと頼んだら。カラオケに行つてやらんでもない。

彰吾は土下座する。

彰吾 この通り。出かけてくれ。

若菜 ・・お兄ちゃん気持ち悪い(足で頭を踏む)。
彰吾 (足を払い) やりすぎやろ。それはお兄ちゃんでも許さんぞ。
若菜 ちゃんとしいや。
彰吾 行け。

若菜出かける。
ノートを片付け、誰もいなくなった部屋を眺めて、

彰吾 ・・よし。

部屋にちえを招き入れる。

彰吾 どうぞー。
ちえ ・・お邪魔しますー。
彰吾 どうぞどうぞ。

ちえ さつき若菜ちゃんに手土産渡しといたし。
彰吾 あー。そんな気イ使わんでいいのに。
ちえ ううん。常識やから。
彰吾 なんか、どつか出かけよったわ。お茶いる？
ちえ あー大丈夫。
彰吾 今日、家、誰もおらんねや・・・。
ちえ ・・なんなん。おるっていうてたやん。
彰吾 若菜おってんけど・・・。
ちえ ・・。。
彰吾 どうしよか。
ちえ ・・。。
彰吾 シャワー浴びてくるわ。そういうつもりちゃうし。普通に。

彰吾はシャワーを浴びに行く。
しばし間。

ちえ ・・・帰るわ。
彰吾 待つてよ！

上裸のまま彰吾が出てくる。

ちえ 最初っからそういうつもりやったんやろ。
彰吾 違う。たまたまや。汗かいたからや。
ちえ 家の住人がシャワー浴びに行くっておかしいやん。
彰吾 じゃあ、先浴びる？
ちえ 帰るわ。
彰吾 待つて待つて。
ちえ ・・。。
彰吾 ちやうねん。
ちえ なにがちやうん。
彰吾 俺はちえと離れてしまった気持ちを取り戻したい。
ちえ ・・は？
彰吾 どうやったら取り戻せるか考えた。
ちえ で。
彰吾 今夜は満月や。
ちえ ずっと一人でなに言ってるの？ 意味わからんねんけど。 ・・あのさ。
彰吾 家、誰かいるって言うてたから、しゃあなしで来てんで。

彰吾 ちえ。大丈夫。俺に任せて。おいで。
警察呼ぶで。

彰吾 なんて。

ちえ 双方の同意がないから。

彰吾 警察関係ない。俺とちえの話や。

ちえ ・・あ。

美恵子 あー。ちえちゃん。

彰吾の後ろに美恵子がいた。

ちえ 美恵子さんお邪魔してます。

美恵子 ちえちゃんこの前ありがとうねえ〜。(上裸の彰吾を見て)あ、ごめんお邪魔やった？

ちえ いえ。めっちゃ会いたかったです。めちゃくちゃ今、会いたかったです。

美恵子 ほんま嬉しいわ。あ。この前言った梅酒飲む？

ちえ ええ〜。いいんですか？

彰吾 美恵子さんって、もう出かける予定ないですよね？

ちえ (遮って) 飲みましょ。美恵子さん。美恵子さんと、梅酒飲みたいです。

美恵子 とりあえず、見てもらうだけ持って来よか。

ちえ はい。

美恵子は台所へ。

ちえ ということなんで。

彰吾 ちえ。ほんまに俺の事好きなん？

ちえ ・・こういうのは、嫌。お願いやし、こういうのじゃなくて、普通にかつこいといとこ見せてよ。

彰吾 ・・。

ちえ こういう子供っぽいコトされたら、これから先、不安なるわ。頑張ってくれるんちゃうん。

彰吾 ごめん。

ちえ とりあえず上、着たら？

彰吾 ・・。

彰吾は、服を着る。

ちえ 正直さっきのは、本能的に警察案件やなって思ってた。

彰吾
・・。

美恵子、梅酒を持って入ってきて、

美恵子
これこれ。

ちえ
すごい。

美恵子
彰吾さんも飲む？

彰吾
あ、ああ。

美恵子
じゃあ後はお二人で。

ちえ
飲みましょ、飲みましょ。美恵子さんと喋りたいこといっぱいあるんですよ。

美恵子
え〜？ 私と？

ちえ
はい。

彰吾だけが浮かび上がり、楽しそうに話す美恵子とちえの姿がシルエ
ットになっていく。

だんだん彰吾が一人になっていく。

【9】公園

場は、公園になる。

公園の遊具に腰かけ父のノートを読む若菜。

脇にはちえからの手土産がある。

そこに現れた彰吾。

彰吾
なにしてるの。

若菜
・・びっくりした。突然やめて。

彰吾
なんで公園おんねん。

若菜
お兄ちゃんこそなにしてるの。

彰吾
美恵子さん帰ってきて・・ちえと梅酒で盛り上がってる。おれんくなっ
て・・。

若菜
・・。

彰吾
カラオケ行ってないん？

若菜
うん。

彰吾
ていうか。もう読むなよ。また傷つくぞ。

若菜
・・最近、私の事一つも書かなくなってるん。

彰吾 俺が書くな言うたしな。

若菜 美恵子の事ばかり。美恵子。美恵子。美恵子。

彰吾 えーやんそれで。

若菜 それはそれで複雑。

彰吾 何を求めてんねん。

若菜 書かれるのは書かれるで腹立つし、書かれてないのは書かれてないので

腹立つし・アー複雑。

彰吾 どっちがいいの。

若菜 どっちも嫌。

彰吾 難しいやつぢやな。(ノートを取る)最近、日記か詩かわからなくなってるもんな。

若菜 お兄ちゃんも読んでるん？

彰吾 たまにな。

若菜 手術してからメモのペース上がってるよね。

彰吾 あー。書き残そうとしてるんちゃうん。

若菜 ・・。

彰吾 生きてる間しか書けへんし。

間。

彰吾 ・・ふと思ったけど・オヤジにもしものことがあったらどうする？
若菜 もしもって。

彰吾 死んだら。ノートどうしよか。段ボール山盛りあるし。普通に燃えるゴミ

若菜 ミで捨てるのもなあ。

彰吾 棺桶ぶち込んだったらええんちゃうん。

若菜 葬儀屋こまるやろ。

彰吾 詩集出す？

若菜 誰が買うん？

彰吾 じゃあ個展する？

若菜 誰が来るん。タクシー運転手の書いた詩。

彰吾 じゃあ、台所で焼くか。悲しく火災報知器が鳴り響く中で。一冊一冊。

若菜 ありがとうって。

彰吾 他の処分もせなあかんし、面倒くさいなあ。

若菜 ややこしいもん残して死なんといてほしいわ。ただのインクと紙やのに、文字にするからややこしいねん。

間。

彰吾 今度検査入院で再発なかったら・一回安心みたいなかんじらしい。
若菜 ・・。
彰吾 裸足で走り回ってるし大丈夫やろ。
若菜 ・・。

問。

彰吾 月綺麗やな。
若菜 誰やつけ？ それ言うたん。
彰吾 なにが。
若菜 愛してるって意味で。
彰吾 夏目漱石。
若菜 あれさ・私、正直、ピンとこうへんねん。「愛してる」なら「愛してる」って言うたほうがいい気がするんやけどなあ。感受性腐ってんのかな。
彰吾 あのさ。俺は、ちやう意味で言うてんねん。
若菜 なに？
彰吾 月が綺麗ですね。夏目漱石。・お金返さなってならんかなーって。
若菜 あー旧札の夏目。なるほど。お兄ちゃん、おしゃれな借金取りやな。

若菜、千円札を返す。

若菜 ちえからもらった。(ちえからもらった手土産を彰吾に渡し) 定番すぎる。60点。

【10】スターボックス

原が、スターボックスでパソコンを広げている。
その脇にはコーヒークップ。

(以降、NAは脳内で執筆中に思索する声として語られます)

原NA これまで誤魔化してきた人生が悪い・しつかりシナリオハンティングをせねば。まずはアルマジロの生態を調査する。グーグルを開いて・と・グーグル開いたら自然とユーチューブ開いてもうた・危ない危ない。ユーチューブなんか永遠に見てまうからな。・吉村さん何してはるんやるか・。吉村さんのSNSは・。

吉村が浮かび上がる。

吉村

執筆中です。今すこし難攻しています！ 頑張ります。

原NA

あかん。吉村ミュートして表示されんようにしとこ。心乱れるわ。何が難攻じゃい。やーでも、難航するよね。うちも難航してるもんな・

波しぶきの音。

だんだんと海のようになっていく。

原の座っていた椅子が波間にたゆたう。

原NA

なんていうか、大海原に、ポツンとほおりだされて・漕いでも漕いでも、永遠すすんだ気がせんやつ・新大陸発見するんやけど・結局、砂漠地帯でなんもなかったり・その繰り返し・かすかにみえるアルマジロ型した北極星目指してるけど、あれがほんまに北極星かわからん・一人、波にたゆたい・脳がゆれて、正常な判断も、地図も合ってるんか不安になってくる・まさに難航。動物エッセイというレッドオーシャンで・遭難して・

原

(店員に話しかけられた様で) あ。はい。わかりました。

原NA

スタバって十一時まで違ったつけ・閉まるん早なるんやったら言うて欲しいわ。あー、ほんま、合ってるんかな、こつちで・。目的地見えんまま違うほう漕いでたらどうしよ。アルマジロなあ・アルマジロ・そんなことアルマジロ・。締め切りまで、あと10日か・

【1】 部室

まどか、田口、ももこがいる。

ももこは詩の修正をしている。

まどか

・なんで時間になってもみんな来ないの。

田口

さあ。

ももこ

田口くん筆箱かして。

田口

鞆ん中にあるわ。

まどか

キャリアデザインセンター見てくるわ。

田口

はい。

まどかは部室を出る。

田口の鞆から一枚の紙(*3)を見つけたるもも」。

ももこ (読みながら) 田口君、詩、書いたんや。

田口 勝手に見んといて!

ももこ なにこれ。

田口 ちやうねん。あのお・・ああ・・。

ももこ 説明してよ。

田口 説明は・・うーん・・。

ももこ ハイハイ。有罪です。

田口 有罪?

ももこ このさ「同じ背丈の君が好き」って誰? 田口くん、身長いくつ?

田口 180。

ももこ うち150。全然違いますよね。どういうことですか。

田口 ファイクションやん。

ももこ 何がファイクションや。(背を比べて)全然違いますよね。どこが同じ背

丈ですか。

田口 だからファイクションやって。

ちえが来る。

ちえ お疲れ様です。

ももこ ちえ、こつち来て。並んで。ハイ、同じ背丈ー。同じ背丈の君が好きー。

確定。確定ですー。彼女おって、よー他の女のこと詩にかけるなあ!

田口 ちやうって。

ももこ あー、よう言えますね。極めつけココ。縦読みして。

田口 (詩の頭文字を縦読みして) ちえ、らぶ。

ももこ ハイ確定。

田口 たまたまやん。

ももこ たまたま縦読みで「ちえらぶ」とかなる? ちえのこと好きなん?

田口 こじもものこと書けばいいの?

ももこ 書けよ。

田口 じゃあ、こじももは俺の事考えて書いたん?

ももこ 書いたよ。・・なんやねん。こんななんいらんわ!

ももこは、自分の書いてきた詩を破く。

ももこ (・・一旦距離おい)。

田口 ちよつと待ってよ。

ももこ 全部うつとおしいわ。ちえと付き合ったらええやん。詩が嫌ややったわけじゃなくて、前々からちえちえ言うのやめて欲しかったん。ちえ探して、ちえの彼氏に殴りかかったり、おかしいなと思ってるん。

田口 俺の写真消すんやめて。

ももこ 近づかんといて！

田口 ……

ももこ ちえに一回生の頃、告ってるしな。そりやそうやんな。

田口 なんて知ってるの。

ももこ 女子の口の軽さなめんなよ。

田口 ……もお…。

ももこ 疲れた。

田口 距離置いてどうすんの。

ももこ 距離置いて、そのまま別れたらいいんちゃうん。

田口 え。

ももこ 鍵返す。

ももこは鍵を投げつけ、

ももこ 追いかけてこんといて。追いかけてきたらスグ別れるから。

田口 サークルどうするん。

ももこ 休む。ちえ、口内炎で休むって言うといて。

田口 ……

ももこ 追いかけてこんといてや。

ももこは部屋を出る。

ちえ ごめん。

田口 ごめん。

ちえ 説明して来よか。

田口 あー…。いや…。

吉村とまどか戻ってくる。

吉村 締め切りまで、あと10日やぞ。全員裸で詩、書けてるか？ 着こむな

田口 よ。脱げよ。こじももは？

田口 口内炎で休むそうです…。

吉村 口内炎で休むなよ！
ちえ すいません。
吉村 田口、こじもも連れ戻してこい。
田口 僕、追いかけたらダメなんです。
まどか もお、こうやって来てくださってるのに、なんなの！ いい加減にしてよ。私探してきます。

まどかは追いかける。

吉村 なにがあつたんや。
田口 僕の詩みて怒っちゃって……。
吉村 ・・これ全部こいつのこと書いてるやん。背丈のことも、髪型も……縦読みで「ちえらぶぶ」って書いてもうてるやん。
田口 違うんです。
吉村 ありったけやないか。
田口 違うんです。

なぎさは紙の束を持って入ってくる。

なぎさ お疲れ様です。詩できました。

なぎさは紙の束を吉村に渡す。

吉村 東。
なぎさ 出せるだけ出せて言われたんで。うちのインク切れるまで書いてみました。
吉村 どうせ全部AIで書いたんやろ。情緒のない東やで。全部メモ用紙いきや。
なぎさ 出せるだけ出せて言うたんやから読んでくださいよ。
吉村 いや、こんなん、嫌がらせの量やろ。

まどかが、ももこを持ち抱えて入って来る。

ももこ 離せー！ 離せよ！
まどか バラバラにならんといて！
田口 ・・（ももこに）ごめんな。
ももこ うるさい。ちえ、早く彼氏と別れて田口くんと付き合っただけ。

田口 ちやうから。

まどか まとまろ。

ももこ 嫌や！

まどか 落ち着ご。

ももこ 離せ！

まどか 落ち着いたら離す。

ももこ なんや。みんなして。私が悪いみたいに。

吉村 待て！ 待て！・・・アレ？ これみんな揃ったんちやうんか。自己

紹介するわ。吉村です。キャリアデザインセンターの吉村です。よっし
やあ言えたあ。

ももこ 離せー！

まどか ちゃんと田口くんと話して！

ももこ いややー！ 離せー！

まどか ちゃんと話して！

吉村 おい、まどか！ こじももの件はうちが預かってもええか。

吉村、まどかから、ももこを肩に担いで受け取る。

ももこ 離せえ！

吉村 こじもも。その衝動大事にせえ。エエ状態や。今、一番裸になるときや
でー！

吉村はももこを抱えたまま去る。

まどか ・・大丈夫かな・・・

田口 ・・。

まどか 締め切りまであと10日だけど・・・みんな大丈夫なの？

田口 いちいちカウントダウンするんやめてください。重々わかってるんで。
だよね。

田口 もう、僕無理っすよ。詩出ないっすよ。

なぎさ AIつかったら？ 揉めへんし、早いし。

田口 無料っすか。

なぎさ みんなおいで。

なぎさのパンクンの周りに集まる一団。

なぎさ 今なんでもいいし、思い浮かんだフレーズ言って。

ちえ ・・締め切りヤバイ。
なぎさ どう？

一同 おお。

なぎさ これでちよちよっとリライトしたら著作権大丈夫やし。

田口 (凄いの意で)すご。

まどか いいの？ それで。

なぎさ まどか、無駄にもめなくていい時代が来てんねん。

まどか ・・。

なぎさ あと・・、

と、パソコンでどんどん出来上がる詩を驚きつつ見ている一同。

【12】 淡路島のスターバックス

淡路島のスタバでノートを広げて、執筆している柊。

柊NA ここに来たら書ける。モルタニア王国のモデルは淡路島。

汽笛の音。

柊NA 来るのに1万円。泊まるのに1万円。帰るのに1万円。贅沢に1万

円。・・計4万円。・・なにしてんのやろ。・・モルタニア王国完成したからって収入が増えるわけでもないのに。・・こんなお金かけて。しかも思ってた淡路島ちゃうし。・・淡路島じゃなくてよかつたやん。4万円あつたら、もっと他にできたやろ。・・淡路島でスタバ。・・原さんに現地取材したほうがいいって言われたけど、こんな金飛ぶだけやん、近所でよかつたやん。ここまでして書くんはなんぞなんやろ。家で犬と遊んでたら幸せやのに。・・あ。夕日。これ、ええ。めっちゃ、夕日。いっか。・・4万の価値の夕日。・・高いな。家でも見れたしな。どこでも一緒やしな。・・原さん。・・今頃書いてはるんやろか。・・。

原、船を漕ぎ現れる。

柊NA どう？ 原さん。

原 もう生活めちゃうちゃです。

柊NA わかる。

原 部屋もめちゃうちゃです。なんでここまでして。・・航海を続けるんでし

ようかあああゝ・・・！

原、流されていく。

柘N A 流されて行かはず。とりあえず・・・吉村のSNSみて安心しよか・・・
こういう時、くすぶってるやつはSNSみたらちよつと安心するかもしれんからな・・・。

ダンスを踊るももこが浮かび上がる。

吉村 今日は執筆お休みです。大文字へ来てます。
柘N A ・・なに学生さんに踊らしとんねん。・・あかん、ずっとみてまうわ。
ミュートしとこ。や、大文字のぼってる場合かよ。そやな・・・淡路島来て肌でつかもうとする場合ちゃうな・・・とりあえず書き進めよう。

【13】大文字山の山頂

山のてっぺん。

吉村は、短い音楽を流して、ももこを躍らせている。
それを動画に収めている。

ももこ (踊りつつ) 次が・・・どうですか？

吉村 (踊りを教えて) ちゃうこや。

ももこ ええ？

吉村 お前、今日はじめて笑ったんちゃう？ ええ顔や。

ももこ 大文字初めて登りました。

二人は、山から景色を眺める。

しばしの間。

吉村 知ってるか。山って登るルートいっぱいあんな。でも頂上変わらんねん。

ももこ ・・・・。

吉村 ・・こじももも。田口とどないすんねん。付き合ったら結婚するか別れるか、どっちかしかないねん。どっちの頂上目指すんや？

ももこ もう別れるんで大丈夫です。

吉村 ふーん。

ももこ

・・・

吉村

ふーん。

ももこ

もう・スパッと別れます。

吉村

ふーん。

ももこ

なんですか。ほっといてください。

吉村

このまま山おるんか。

ももこ

田口くん、最近ひとつもいとこないんです。付き合ったら悪いところばかり気になって。付き合う前のほうがまだいいところありました。もう、多分無理なんです。

吉村

田口、呼ぼか。

ももこ

はあ？

吉村

田口、呼んで話しせえ。

ももこ

なにゆうてるんですか。

吉村

呼んどんねん。田口！ 田口！

田口が草むら現れる。

田口

痛てて。

吉村

大文字山には色んなルートがあつてな。険しいほうのルート教えてん。よう登ってきたな。鹿か熊か、田口くらいしかこっちの道登れへんぞ。正規ルートで教えてくださいよ。

田口

よう登ってきた。

吉村

ももこ・・・

ももこ

ホラ、足挫いてるやん。どんだけ弱いねん。もう私山おります。

吉村

田口来てくれたんや。話しせえよ。田口険しいほうのルートで来てくれてんねんぞ。帰りも鹿か熊か田口しか来れへんルートで帰って襲われて死んだらどうすんねん！ 誰しも明日、当たり前前におると思うなよ！

ももこ

・・・

吉村

ちゃんと話しせえ！

ももこ

・・・わかりました。

田口

ももこ・・・これ、ももこの詩。セロハンテープでごめんやけど・・・

ももこ

・・・直してくれたん・・・

田口

うん。・・・ごめん。ちゃんと読んだ。ありがとう。

ももこ

そっか。

田口

ももこにあえたら足治ってきた。

ももこ

・・・うそつけー。(田口の足を叩く)

田口

痛い、痛い。

もも「は、」ほら、ほら「と田口の足を遊ばすように叩く。痛がる田口。
吉村はその様子を見て、

吉村 うちには締め切りがあるので、そろそろブロンをせめていただきます。ブ
ロン！

吉村はそういつと、山を駆け下りていく。
しばしの沈黙。

ももこ ・・話す？

田口 うん。

ももこ ・・。

田口 (見下ろし) 景色きれいやな。

ももこ ・・葉っぱついてる。

田口についた葉っぱを払ってやる。

【14】 秋山家

リビング。キャリーケースに荷物をギューギューと入れる美恵子。
かなり格闘している。

良晴が現れる。

良晴 ああ、ありがとう。自分でするわ。

美恵子 ありがとう。

良晴 (閉まらなそうなので) ちょっと多いんちゃう？

美恵子 そうかな。

良晴 一回開けてみていい？

美恵子 一週間分やしね。

キャリーケースを開ける良晴。

良晴 ・・ノート入れすぎやわ。鉛筆も。

美恵子 そう？

良晴 こんなのは・・・。

美恵子 良晴さん、ようけ書かはるから。

良晴 めっちゃうれしいけど・・・減らそか。

良晴は、ノートを出して選別していく。

良晴 過去のノートも入れてくれはったんやね。

美恵子 はい。

良晴 過去のはいいかな。

美恵子 ・・これって隠したりはしないんですか？

良晴 昔は、高いところ置いてたんやけどね・・・今はどこ隠しても彰吾にも若菜にも読まれるんで・・・もう隠すん諦めたんです。(ノートを出して)これとこれは、置いといてください。

美恵子 (ノートを受け取り)どっかに発表しようとかはないの？

良晴 ないです。僕は作品創りたいだけの人間なんで。(キャリアケースを閉めて)これでいけるでしょう。

美恵子 検査入院なんにもなかったら、お酒飲みましようね。

良晴 はい。

キャリアケースを立てて、部屋へもっていきつとめる良晴。

美恵子 良晴さん・・・このノートなんですけど・・・。(開いて)これ、ここに書き足されてるのって・・・若菜ちゃんの字ちやうかなあ。

二人は、ノートに書き足された若菜の言葉(*4)を読む。

美恵子 ・・淋しいんやろねえ。たまには若菜ちゃんのことも書いてあげんと。

良晴 そやねえ。

美恵子 あ。

奥に若菜が覗いているのを見つける美恵子。

若菜 ・・。

美恵子 私は、無意味に玄関の掃除して来よかな。

良晴 え？

美恵子 二人で話してもしたら。

美恵子は玄関へ。

若菜　・・退院いつなん？
良晴　一週間くらいやけど。
若菜　検査するだけなん？
良晴　そうや。
若菜　お金は？
良晴　結構かかるけど、これで再発なかったら、一回安心やしな。
若菜　ちやうやん。うちの小遣いやん。
良晴　あー。渡しとくわ（一万円を出して）これでええか。
若菜　ん。（受け取る）
良晴　ごはん、美恵子さん作ってくれて言うてはるけど、嫌やったら外で食ってきてもええし。非常食もいつもどこ入れてるし、適当にやっちな。
若菜　ん。・コレお兄ちゃんの彼女からの手土産。一個あげる。賞味期限きれてるけど・・。
良晴　ああ。ありがとう。
若菜　（ノートを拾い上げ）あとさ、最近の詩へんやで。
良晴　・・どこが。
若菜　その一ページ目ひらいてみいや。ちやう。そっちちやう、赤い方の。ちやう。
良晴　どれや・・。
若菜が良晴の横に座ってノートを開き、詩のダメ出しを始める。

【15】 大学構内 外

なぎさが、まどかを被写体にして写真を撮っている。

まどか　バラバラ。ずっとバラバラ。
なぎさ　笑顔。
まどか　（笑顔を作りポーズを決める）
なぎさ　（シャッターを切る）
まどか　学生って、くくりで見られるの癪なんだよね。
なぎさ　笑顔。
まどか　（笑顔を作りポーズを決める）
なぎさ　（シャッターを切る）
まどか　まあいいんだけど。・・や、よくないんだけど。
なぎさ　笑顔。

まどか
なぎさ
(笑顔を作りポーズを決める)

まどか
なぎさ
あー。今日も夕暮れる……。なんもしてない奴も夕暮れるし、真面目にやってる奴も夕暮れる。みんな夕暮れる。同じなのに、なんて不平等なだろう。

なぎさ
ポエムってるねえ。

まどか
なぎさ
あのさコレってさ何の写真？ 私もそろそろ作業戻りたいんだけど。

まどか
なぎさ
や、詩はAIで出来たんやけど、もうちょっと写真ごだわりたくて・・・。写真もオートフォーカスで自動補正したらいいじゃん。

なぎさ
まどか
いやあ。写真は、なまじ撮ってもどうにかなっちゃうから難しいんよねえ。

まどか
詩はAIに任せてるのにな？

なぎさ
これは自分でやりたいから。

まどか
なぎさ
なんでもかんでもAIじゃないんだ。

なぎさ
自分でやりたいことは自分でやって、他人(ヒト)にやって欲しいコトはAIと役割分担してて。やー今回詩作るのにAIと出会ったけど、まじで便利やわ。もう極端な話、将来一緒になる人AIで決めてもらっても全然いい。

まどか
絶対やだよー。

なぎさ
今マッチングアプリとかあるやん。ティンダーとか色々。あれ、相性いい人、AIで選んでくれるから、めっちゃめっちゃ効率ええねん。

まどか
やってんの？

なぎさ
最近はじめてんけど、効率ええし、今んとこ、ええ人としか会ったことない。

まどか
きてんだな未来。

彰吾
ティンダーってそんなにいいんすか？

彰吾が背後にいた。

まどか
ああ、こんにちは

彰吾
こんにちは。ちえを迎えに・・・。

まどか
多分、部室の方に・・・。

彰吾
あの一。この前、田口って方とすいませんでした。

まどか
あー。

彰吾
あの後、一応ツイッターのDMで話せたんで・・・。

まどか
あーそうなんですな・・・。

彰吾
すいませんでした・・・オヤジも迷惑かけてないですか・・・？

まどか
かなり助けていただいて。おかげで、ほとんどみんな詩出来て。
へえー。それって・・・どこかで見れたりするんですか・・・？
一応、同人誌みたいなのに掲載して今月末に文学フリマっていうイベン
トで売るんですけど・・・。

ちえ、入ってくる。

ちえ
（彰吾に）あ。ごめんごめん。（まどかに）すみません。今日ってもう
サークル大丈夫ですかね。
もう出来てるんだったら・・・。
データ、クラウドに上げといたんで。
まどか
順番とか・・・。
ちえ
なんでも。予備のも上げといたんで。
まどか
今見ていい？（携帯電話を出して確認する）
ちえ
はい。彰吾先行つといて。
彰吾
自転車回してくるわ。（まどからに）すみません。

彰吾去る。

なぎさ
だつて、ちえもAIやもんな。
まどか
お前もテクノポエムか！
なぎさ
なんやテクノポエムって。
ちえ
まあ道具なんで。次々こなさないと、締め切りってスグ溜まっちゃうん
で。

まどか
（携帯電話のちえのデータを見て）あーこれか・・・。
なぎさ
いちいち感情使つたら、締め切りってしんどいもんな。
ちえ
最近レポートもAIで書いてます。
まどか
ちなみに二人はさ、自分の想いと締め切りどっちが優先度高いの？
なぎさ
でもAIに想いがのってへんわけちゃうし。
ちえ
いいな、と思ったのを手直ししてるんで。
まどか
だよ。オツケ。じゃあ順番こっちで見繕うわ。
ちえ
ありがとうございます・・・では、お疲れ様でした。
まどか
あ、あのさ。2人って仲直りしたの？
ちえ
はい。すみません、色々相談してたのに・・・。
二人
いやいや・・・。
ちえ
悪いところ直してくれるって約束したんで。
二人
そっかそっか。

ちえ

失礼します。

ちえ去る。

まどか ありやあ一生ループだね。

なぎさ ちえもAIつかって新しい出会い探せばいいのに。

まどか もう写真(撮るの)いい？

なぎさ ああ、うん。詩はめてみるわ。あと、出来てないので誰？

まどか 田口とももこと、私。

なぎさ 出来そう？

まどか ーどうでしょう。

なぎさ ・・・

まどか や、もう、アレですよ。やれば出来る。ですよ。こういうもんは。

なぎさ AI使えばいいのに。

まどか や、それは吉村さんと約束したから。あとちょっとだから作業戻るね。

【16】吉村の自宅

吉村がパソコンのディスプレイの明かりに照らされ、頭を抱えている。

吉村NA

どうしょ・・・出えへん・・・明日締め切りやのに・・・出てこい。出てこい
や。調子乗りすぎた。でも、もし出てきても間に合わへんし・・・ていう
か、・・・なんで締め切りつてあるんや・・・締め切らんかったら書きたい
ように書けんのに・・・明日入稿かー。無理やなあー。啖呵切つてしもた
手前・・・遅らせられへんしな・・・写真サークルの子ばかり面倒みてる
場合じゃなかった・・・アイツらのせいや・・・！ なんでアイツらのせい
で・・・SNSも全然更新できてないし！ 原さん書けたんかな・・・柀
さん書けたんかな・・・あのレベルには落ちたくない・・・うちは文学であ
りたい・・・ああ。死にたい・・・あかん。作家の一番あかんとこ出てる。
今うち作品ないし、ただ死ぬだけや。無意味や。あかんあかん。生きな
生きろ！ 生きろ！ 書いてないのに死ぬとかマジで意味わからんか
ら！・・・明日仕事やし寝たい・・・なんで私は書くとかいうてん・・・あ
ー。あかん・・・どないしたら・・・ア。

吉村のパソコンを打つ手が止まらなくなる。

吉村NA

・・・あ。・・・ああ・・・あかん・・・嘘やろ・・・止まらへん・・・なにこれ

ー・・・えー・・・書ける・・・書ける・・・嘘やろ・・・早く出会いたかった
ー・・・あ、あああああ。

【17】大学の教室
吉村の手はどんどん加速していく。

原はパソコンを開いている。柘、まどか、なぎさもいる。
そして吉村も。

原 凄いやん！ 吉村さん。間に合ったやん！

吉村 ……。

原 第一号以来揃って入稿できますね。

吉村 ……。

原 じゃあ、入稿しますね。なんか「入航式」みたいやね。

柘 なんやそれ。

原 これから文学という海へ出航するみたいな。これを押せば「夕映えのゆ
くえ」が本になって世に出ます。押します・・・みなさまお疲れさまでし
た。・・・（エンターキーを押そうとするが）なんて言って押します？

柘 いい。いい。サッサと押して。あと10分で17時なるから。入稿ミス
ったらキンコースで手作業なるんで。調べたらキンコース営業時間24
時間じゃなくなってるし。心いらんで押して下さい。

原 学生さん・・・押すよ・・・写真だけ撮ってね。

まどか はい。

原 押します。

吉村 待つてください！ あのー・・・やっぱり出せません。納得いっていな
いっていうか・・・。

柘 完全に納得してる人なんかおらんやろ。

吉村 読者との約束が・・・。

原 パツと読んだ感じ面白かったですけどね。

吉村 私・・・AI使いました。もう書けへんってなって・・・どうしよう・・・
ってなって・・・詩考えたけど、無理で・・・AIで書きました。
著作権ってどうなってます？

柘 なぎさどうなってんの？

吉村 なぎさどうなりました？

なぎさ したけど・・・。

吉村 じゃあ、吉村さんです。

吉村 でも、うちの気持ちなんもないで！ 感情ゼロで書いてんで。ゼロ思考、

ゼロリリズム！

柊 著作権大丈夫なんやな。

なぎさ はい。

柊 じゃあ、ええやん。

原 出した後ごちゃごちゃ言わんといて。びっくりするわ。

吉村 ……

原 入稿の儀式、終わったら乾杯しようと思って飲み物用意したんですよ。持ってきましたね。

柊 はよ押して！

吉村 あかん…この人ら締め切りにしか興味ないんや…。

原 ああ、初めて。前日キンコースじゃないの。

柊 吉村さん知らないでしょ。前日キンコースの地獄。

吉村 でも…。

原 揉めて無視しあつて…。まさに地獄。

吉村 あの…私の取り下げて、目次とか変えた場合、納期短くして入稿し直す事って、できませんかね…私…お金出すんで…。

柊 十五万。

吉村 五万か…。絶妙に嫌な金額…家賃やん。

原 無いからな…ごちゃごちゃ言いましたけど…入稿したいと思いません。皆さんお疲れさまでした。

原、エンターキーを押す。

原 おめでとうございます…じゃあ乾杯しましよか。

原と柊は、飲み物をとりに行く。

まどかが原のパソコンの前に近づく。

二人が、飲み物を持って戻ってくる。

まどか これ押したら入稿キャンセルできるんですよね…。

原 ……ん？

まどか 前日キンコースまで、あと何日ですか。
原・柊 え。

原 ちよつと。

まどか 近づかないでください。前日キンコースまであと何日ですか？

原・柊 (近づこうとする)

まどか ……いいから答えてください！

原・柘
まどか
答えないと押します……。

柘
まどか
……1週間あるけど……。

まどか
吉村さん、書けますか？ 今から書けますか。体の中にあるんですよね……。出すだけなんですよね……。

吉村
AI使わんと？

まどか
はい……。

吉村
わからん……しんどいもん。

まどか
吉村さん逃げてません？ 「夕映えのゆくえ」第一号読みました。苦悩と戦えって、石黒先生も書いてました。

吉村
うち、自信ない。みんなに偉そうにカマしてて……調子乗ってた……。思った場所じゃないけど、AIで着地したし。不時着も着地みたいなものやし……。それに人生なんて妥協の連続でできてるんやし。物語みたいになまくいかへんし。それ受け入れられるようにならなあかんし。ありがとうな、まどか。

まどか
……まだ終わってない。

まどかがエンターキーを押す。

原
ちよつと！ え？ マジ？ (パソコンの前に行き) うわああ。やりおった……。え？

柘
どうしたらいい？ どうしたらいい？

原
入稿キャンセルしました……ってなってるやん……。

柘
この問い合わせ番号に。

原
えええマジ……うそお。

原と柘は、電話をかける。

まどか
(吉村に) 書いてください！ あなたは書ける！

吉村
……。

まどか
私、吉村さんの読者です！ 約束まもってください！ あんた読者との約束守るんだろ。守ってくれよ！ ……1ページでいい。乗り越えてほしい。前日キンコーズでもなんでもします。

いらいなので原と柘は、電話をかけながら、外へ。

吉村
……。

まどか 私は、約束を守る作者がみたいんです！ 裏切らないでください！ 読者を！

吉村

まどか 今度は私が・・・

まどかは、なぎさに指示する。

原のパソコンの前に座るなぎさ。

なぎさは、原のパソコンを操作する。

まどかはそれを体で隠す。

まどかとなぎさが入れ変わる。

まどかがパソコンの操作をする。

原と柊戻ってくる。

まどかとなぎさはパソコンから離れる。

原

(電話をかけているが) あかん・・・受付終了しましたってなつてんで・・・これやから学生と一緒にやるんいやって言うたんですよ。柊さんが学生とやりたいって言うたはったんやから、責任取ってくださいよ！いや、私は石黒先生に言われたから・・・

柊

石黒先生が死ね言うたら死ぬんすか？

原

じゃあ私が死ねばいいんですか？ ハイハイハイ。わかりました。

柊

だる。大人のそれ、ダル。

吉村

喧嘩やめてください！ 誰も死なんといってください。

二人

(口々に) お前のせいやろが・・・

間。

原

もうええわ。今からキンコーズ行って、さっさと印刷しよ。手作業なるけど、はやっちゃお。吉村さん。掲載なしでイイですよね。

吉村

はい。

原

ほな、そうしましよ。

まどか

・・・

原は、パソコンの前に座る。

原

(操作して) あれ？・・・ん？

柊

どうしました？

原

パソコンが開かん・・・なんで？・・・あれ？

なぎさ パスワード変えました。

原 ・・は！？

まどか 一週間後パスワードお伝えします。

原 私のデータとか全部こん中に入ってるんやけど！

まどか 一週間・．．吉村さんに時間を下さい。

原 一週間って・．．前日にキンコースで作業せえってか・．嫌やわ・．

(なぎさに) パスワード何番？

なぎさ ・．パスワードはまどかが入力したんで・．。

原 (まどかに) パスワード何番？

まどか 責任は私がとります。もし、ページ足りなかったら、写真サークルでペ

ージ埋めるんで。

原 吉村さんの今から掲載無しで印刷しに行ったらいいんちゃうん？

吉村 じゃあ、その方向で・．

まどか (遮つて) ダメです。最後まで、向き合ってください。まだ本当の締め切りは一週間あります。作家には締め切りのその先に、本当の締め切り、デッドラインがあると聞いたことがあります。

原 この人、デッドライン何回も連絡なしに越えてきはってん。面付けも目次も全部変わるし、地獄やってんから・．。なんで、それやのに、一緒にやってるんですかね。石黒先生がいたからええけど、おらんくて、キツイわあ。ババアが学生みたいな感じで締め切り飛ばすん、キツイわあ。レポート提出と違うんやから。

柘 原さん。

原 柘さんが言うてました。

柘 原さん！

吉村 ・．学生さんはしつかりやってくれます。学生さんの事は悪く言わないでください。私が悪いんです。締め切り落とすババアになった私が悪いんです。

まどか 吉村さん・．まだ、締め切り落とすババアじゃないです・．まだデッドラインまで一週間の猶予あります。うちの家泊ってください。付きっ切りでサポートしますから。

吉村 なんでそこまで言うてくれるん・．。

まどか だって吉村さん、私たちのために大事な時間割いて、詩を教えに来てくれたじゃないですか。だからこうなっちゃったんですよね。吉村さんイイ人だから言わないけど、・．少しでもそのお返しができれば・．。この人たちに見せつけてやりましょうよ。

まどか ・．。

吉村 うち泊まってください。

吉村 まどか・・・ちやうねん。作家って、孤独と向き合わなあかんねん・・・だから、人んち泊って書かれへんねん。ごめんな。

まどか ・・わかりました・・・原さん、柘さん。ごめんなさい。納期ずらしてください。私、五万円払います。私キャンセル押したんで、責任取ります。

吉村 え。

まどか は財布からお札を次々に出す。

まどか 全然気にしないでください。馬車馬のように働けばいいだけです。

原・柘 いや・・・

吉村 まどか・・・

まどか 足りない分は、カメラも売るんで。ちよつと、このカメラ質に入れてくるんで、少々お待ちください。

吉村 まどか待つて。大事なカメラやろ。

まどか 私の責任なんで。

間。

吉村 ・・泊めて・・・まどかの家、泊めて・・・ごめん。

まどか はい・・・

吉村 頑張る。

まどか 吉村さん。頑張るは魔法の言葉ですから。私死ぬ気でサポートするんで。

吉村 う、うん。うちも死ぬ気でやる。

【19】まどかの家

吉村 NA まどかが伸ばしてくれた締め切り。一週間・・・まどかの家で書くことになった。まどかは、どんな家住んでるんやろか・・・彼氏とかいてるんやろか・・・もしいたら・・・どないしよ・・・なんて自己紹介したらええかな。どうも。キャリアデザインセンターで働いてる締め切りを落とすババアです・・・とかでいいんやろか・・・いやあ、人んち一週間おるんは気まずいなあ。人んちの匂いと、人んちの麦茶がいつちゃん嫌やねんなああ・・・ここがまどかの家か。まどかの匂いするわ・・・彼氏の気配は・・・なぞぞうやな。あと一週間。頑張るぞ！・・・と、

一気に日が過ぎ去り、

吉村NA 本当の締め切りまで、気づけばあと4日。作家は締め切りの先にある本当の締め切り・デッドラインがあることを知っている。そのデッドラインを目指して書く。デッドラインを越えたら・・・まさに「死」。原稿を落とすわけだが。私は過去、荒波にもまれながらも、ほぼ寝ずの番で執筆をしている。できたページ数は、ゼロページ。全然できてない。まどかは寝かせてくれない。しかしぬるま湯につかっているのは、何も書けない・・・体の中にうねる真つ黒のマグマをひねり出し・・・、

まどか 吉村さん、差し入れです。気にせず書いてください。

吉村 あ、ああ。

まどかが吉村の机に差し入れを並べていき、

吉村NA 眠眠打破。眠眠打破。眠眠打破・・・どんだけ寝かせへん気や。逆効果や・・・とも言えず・・・。

まどかは吉村の頭を揉みだし、

吉村NA な、なんやこれは・・・。

まどか 頭揉むと新しいアイデア出やすいらしいです。固くなる頭を柔らかく。柔らかく。

吉村NA 揉まれてるー。なんやこれー。ああ、こんなにサポートしてもらってる・・・なんとかページ数で返さな・・・。時間は溶ける。

また一気に日が過ぎ去り、

吉村NA 気づけば、締め切り三日前。仕事終わりにまどかが迎えに来て、まどかの家に来る。そして、頭を揉まれる。こいつ指疲れへんのか。まどかの無尽蔵の体力にびっくりする。ずっと揉んでくれる。

ももこと田口入ってきて、

ももこ 差し入れですー。

まどか あーありがとう。

ももこ わたしたちも、吉村さんの貴重な締め切り前のじかんつかっちゃったんで。ちよつとでも力になれたら。

田口 デッドラインまで寄り添います。

吉村NA こいつら・・・ヨリ戻したんかな。(二人の距離感を横目で見るが)・・・

わからん・・・聞きたい。でも聞いたら・・・まどかに「集中」って言われるやろな。でも聞きたい・・・。

吉村 なあ自分らってき・・・。

まどか 集中。

吉村 ああ。

田口 差し入れっこ、置いときますね。

田口とももこは、差し入れを机に並べ、

吉村NA 眠眠打破。眠眠打破。眠眠打破・・・こいつらもどんだけ寝かせへんき

や・・・作品は寝んとやればできあがるもんちやうぞ。レポートとちやうんやからな・・・言うたる。

吉村 あんな、差し入れはありがたいのやけど・・・。

まどか 口、閉じてください。さつきから進んでないんで。

吉村NA ひよえく・・・うちの人権ないく。

吉村 トイレ。トイレ行きたい。

まどか じゃあ行きましょか。

まどかは、吉村の頭を揉みながらトイレへとついていき、

吉村NA このスタイルでのトイレはもう慣れた。

また日は過ぎ去り、

吉村NA 締め切り2日前。恐ろしいほど、できていない。仕事でだけ自由で、そのあとは自由がなく頭をもまれ続ける。

なぎさが入ってきて、

なぎさ 差し入れですー。

吉村NA 来た。AI使いたい。AIツカイタイ・・・。

なぎさは、差し入れを机に並べ、

吉村NA 眠眠打破、眠眠打破、眠眠打破・・・頭おかしなる。

なぎさ AI使えばいいのに。

吉村 AI・・・ツカウ・・・AI・・・、

まどか 集中。

吉村NA あかん。あかん、頭揉まれ続けて脳みそぶよぶよや・・・でも、田口も（じもも寝んと起きてくれる・・・まどかもしんどそうな顔隠してる・・・でもあかんできひん、二日前・・・あ、ああ、ああ、

吉村NA・吉村 あ、ああああああ・・・！

吉村倒れてしまい、

まどか 吉村さん。吉村さん！

吉村NA そのまま本当の締め切り前日になってしまいました・・・というか文学フリマ前日・・・砕けた腰とぶよぶよの脳みそで、立ち上がれませんでした・・・。

柘と原が入ってきて、

原 大丈夫？ 吉村さん仕事休まはったけど・・・。

柘 どんだけ出来たん？

まどか 五ページだけで・・・。

原 えー、面付け変わるやん。

田口 面付け？

原 コピー本中綴じで作るときは、独特のページの組み方せなあかんねん。それが崩れんねん！

なぎさ ページ数いだけたら私の方で・・・。

柘 結局吉村さん最終号までデッドライン落としはったね。

まどか でも、五ページ書けてるんで・・・。

原 途中やろ。

まどか 続くってしておけば・・・いつかまた・・・。

原 最終号やのに？

まどか はい。

柘 大森さん。残念やけど・・・吉村さんの無しでいきましょ。

まどか 秘策があります。全体のページ数も変わらない、目次をちよこつと書き換えるだけで済む・・・いい方法があるんです・・・。ちえ。

ちえがやってきて、

ちえ ご案内します。

【20】秋山家

場は、そのまま秋山家のリビングへと変わる。
まどか、田口、ももこ、なぎさ、ちえ、原、柊がいる。
ノートの詰まった段ボールを持って現れる美恵子と彰吾と若菜。

美恵子 ちえちゃん。まだまだあるけど・・・。

ちえ 美恵子さん、すいません・・・。

美恵子 どうぞどうぞ。ちよつと良晴さん、検査入院行っはるけど。

ちえ 大丈夫なんですか？

美恵子 検査入院やしね。

ちえ いつ頃戻られるんですか？

美恵子 今日帰って来はる。今から、迎えに行くところなんやけどな。

まどか すいません、そんな大変な時に。

美恵子 大丈夫。「夕映えのゆくえ」に載せてもらえるん良晴さん喜んでわ。
わ。

まどか (原に) 良晴さんの詩で十五ページいきましよう。

原 いやいやいや。

まどか すいません。こんな方法しか思いつかなくて・・・でも、良晴さんも詩が掲載できるなら嬉しいってラインくれてたし。石黒先生の方にも研究室にお願いしてメールしました。

原 (メールを送ったことに対して) 勝手にやめてくれる？

まどか 一応、こんな感じで返信きてて・・・。

まどかは、原と柊にメールの内容を見せる。
二人は読んで、

原 石黒先生つばいわ〜。

柊 石黒先生がこない言うてはるんやったらええけど・・・。

まどか (ノートの量を見て) やー・・・想像してたより多いですけど・・・とりあえず片っ端から見ていきましよう。

美恵子 いつまでに必要なん？

まどか 今日選んで、今日印刷して、今日日本にして明日売るスケジュールで・・・。

美恵子 暴力的なスケジュールやね・・・。

まどか すいません。

美恵子 若菜ちゃん。いいやつ選んであげて。

若菜 え・急に・。

美恵子 みんな困ってはるし。

若菜 あの。もうちよつと計画的にできないんですか？ 作家って、いつまでも出会い求めているから、スケジュール通りにできないんですよ。そういうの自覚してます？

柊 ・・うちらアマチュアやし。

美恵子 (若菜に) いつも読んでるやん。

若菜 そんな急にわからんよ。

まどか 私たちも片っ端からみてみましょう。気になるのがあったら、付箋してもらって。

原 と言われてもなあ・。

一同は、段ボールに入ったノートを開いていて詩に目を通していく。

美恵子 (一冊のノートをまどかに) ・・じゃあ、この最新作どうですか？

まどか ?

美恵子 病床で久々の娘への想いを・。

まどかは、手渡されたノートの詩(*5)を読む。

若菜はまどかに近づき、ノートを覗き込んで読む。

若菜 ・。

まどか これ載せてもいいですか。

美恵子 作家からの許可は得てるんで。ドンドンいきましょ。

まどか (若菜に) これ、載せるね。

若菜 (うなづく)

まどか じゃあ、写真で撮って文字認識させてデータ化します！

まどか さすが！

まどか 選んだやつここに置いていってください。

まどかは、タブレット端末を出してノートの紙面をスキャンしていく。

まもこは、ちえを「っそり外に引っ張り出す。

彰吾と田口は、それに気づく。追いかけて外へ。

柊 とりあえず原さん、やるしかないですね。

原 柊さん、こういうの燃えるタイプですもんね・・・。
若菜 (とあるノートのページを開き) これなんかどうですか・・・？
まどか いいね。どんどんちようだい。
若菜 えっと・・・。

若菜はノートを選んでいき、ページを開いて、なぎさの横に置いている。
なぎさは文字認識させてデータ化させようとしていたが、

なぎさ ああ、字が下手すぎて、文字認識出来ません！ (ノートパソコンを出して) 手打ちでいきます！

まどか 手伝うよ？

なぎさ あとどれくらい？

まどか (なぎさの頭を揉んで) もうすぐ18時。

なぎさ (揉むのを拒否して) ありがとう。今、頭の柔らかさ大丈夫だから。

それから18時までの流れの表現。スケッチ。音楽の中で。

* * *

近くの公園で、ちえに掴みかかる、ももこ。

止めに入る田口と彰吾。

揉みくちやになる4人。

* * *

秋山家のリビングでは、ノートを選んで、ページを開いて付箋を貼ったり、ひたすらにパソコンに打ち込んでいくなぎさ。

* * *

公園で警察に口頭注意されている様子の4人。

* * *

なぎさはパソコンに打ち込みながら、

なぎさ これで、ラストです！ 面付けできました！ 18時！ キンコーズ行

きましよ！

美恵子

ここは片付けとくんぞ。

柀

閉店まであと、4時間。あとはキンコーズ行ったらどうにでもなるやろ！ 人数で一気にやるぞ。行くぞ！

一同、秋山家を後にする。

ノートを片づける美恵子と若菜。

【21】公園

警察に口頭注意されている様子の田口、ももこ、ちえ、彰吾。

ももこ

(警察に説明して) ここは同じ大学の同じサークルで・・・この人は、この交際相手です。はい。はい。すいません。大丈夫です。

と、警察はどこかへ行った様子。

ももこ

なんかごめん・・・。

ちえ

いや。うん・・・。

ももこ

警察来ると思わなかった。

田口

ちよつと騒いじやつたし。

ももこ

だって・・・や、ちえ。なんでなん？

田口

ちやうねん。

ももこ

田口くん黙ってて。なんで田口くん・・・あんな詩書かせたん？

ちえ

・・・

ももこ

男と別れるために？ 田口くんの字で？ 田口くんは詩書かせて？

田口

ちやうねん。

ももこ

黙ってて・・・それを男にそれとなく見せて？ それで別れのきっかけ

作ろうとしてたってきいたけど・・・

・・・

ちえ

田口くんが提案してくれて・・・

ももこ

一言うちに言うてくれてもよかったんちやうん。

ちえ

田口くんがオレが悪者になるからって。

ももこ

で、結局、その詩は男には手渡らず・・・うちらが、終わりがけるとい

う・・・なんのギャグですか？

ちえ

・・・ごめん。

ももこ

田口くんは大文字山で朝まで喋らな、うちら終わってましたから

ね。．．それで服引つ張ったりしたのは申し訳ないけど。

ちえ

服は大丈夫。こじもも大丈夫？

ももこ

大丈夫やけど．．．。や、勉強になりましたわ。詩ってその人の自分の言葉に感じちゃうんですね。詩のせいで、田口くんの言い訳一ミリも頭入ってこうへんくて朝までかかりましたよ。詩の破壊力すごいわ．．普通

田口

俺が全部提案したことやし．．。

ももこ

もういいよ。田口くんの言うこと信じることにしたし。

田口

や、事実ではあるんやけど．．ごめん。

ももこ

もうわかったし．．ちえのとももヨリ戻したみたいやし．．どうぞ仲良くやってください。

公園の近くを通る、まどか、なぎさ、柊、原。

まどか

(ももこらに) みんななにしてるの？ バラバラにならないでって！
キンコーズ行くよ！

まどか、なぎさ、ちえ、柊、原は通り過ぎる。

ももこ

文学フリマ明日やし。まだ作業残ってるし。眠たいし。お腹空いたし。

ちえ

手伝いに行かなあかんし．．行く。(去る)

田口

．．彰吾さん。お幸せに。(去る)

間。

彰吾

ごめん。

ちえ

．．なにが？

彰吾

いや。

間。

ちえ

話、しよか。

彰吾

．．別れよか。

ちえ

え？

彰吾

ごめん。別れよ。や、オレ最近、ティンダーやってんねん。(携帯電話のアプリを見せて) ほら見て。いっぱいやりとりしてんねん。大体のマ

ちえ
ツチングアプリやってるからさ。だから、ごめん。大丈夫やから。そっか。

彰吾
（泣き声になり我慢しつつ）オレ、ティンダー始めたから。

ちえ
・・・

彰吾
俺、ティンダーで出会えるから。

ちえ
・・・

彰吾
俺、大丈夫やから。文学フリマがんばってな。

ちえ
・・うん。

彰吾
ちえ、兵糧攻め成功やな。

ちえ
え。

彰吾
ちえのツイッターに書いてたから。兵糧攻めキャンペーン実施中つ

て・・・。辛かった。それ文字で読んでから・・辛かった。詩作らせたの

もキツイし・・じゃあ、行って。ティンダーやらなあかんし。他のマッ

チングアプリもやらなあかんから。

ちえ
・・うん。・・じゃ。

ちえが去る。

途端に、彰吾は膝から崩れてしまう。

ちえ戻ってくる。ちえには気づかずに、

彰吾
・・ティンダー嫌やあ。

ちえ
・・・

ちえ、彰吾に歩み寄ろうとした、その時、良晴がキャリアケースを転がしながら通りかかる。

良晴
・・こんにちは。

ちえ
あ。

彰吾
・・・

良晴
？

ちえ
・・退院されたんですか。

良晴
今日の検査早終わってね。

彰吾
・・

良晴
（彰吾に）ただいま。

彰吾
・・おかえり。

良晴
・・大丈夫か。

彰吾
大丈夫。

ちえ じゃあ、すみません。失礼します。(去る)

彰吾 . . .

良晴 なにがあつたんや。

彰吾 . . .

良晴 . . . にながあつたか知らんけど . . .、俺の詩読むか？

彰吾 なんてやねん。

良晴は、一冊の新しいノートとペンを出して彰吾の前に置く。

良晴 じゃあ、書け。自分で書け。詩やなくてもいいわ。なんでもいい。思い

の丈をな、ワーツと書け。そしたら、ちよっとスッキリするぞ。

彰吾 オヤジになにがわかんねん。

良晴 わかるよ。

彰吾 . . .

良晴 俺は . . .、詩人やからな。

彰吾 . . .

美恵子が出る。少し離れて若菜もいる。

美恵子 (良晴に) ああ、お迎え間に合いませんでしたね . . .

良晴 ああ。美恵子さん。ありがとうございます。若菜も来てくれたんか。

若菜 . . .

良晴と美恵子は、キャリーケースを転がし、家路に着く。

美恵子 . . . 今日「夕映えのゆくえ」のみなさんで、打ち上げされるそうですけ

ど、どうされます??

良晴 どこでされるんです??

美恵子 鴨川だそうです。

良晴と美恵子は去る。

少しの間があり、

彰吾はノートを拾い、何かを書いてみる。

若菜は、少し離れたままで見ている。

彰吾は、ノートに文字を紡いでいく。

【22】文学フリマのスケッチ

ちえ　　なんだかんだ別れることになったものの・・・これで良かったのか・・・まだ豆腐の決断力の私は、頭で考えています。でも、多分こういう繰り返しを、これからもししていくのだろうし、彼氏ごときと思わないと辛くなるような別れもこれからの人生あるでしょう。彰吾も彰吾で、スグにい彼女とめぐり合えることでしょう。

場は、キンコース。冊子作りの作業をしている一同。

ちえ

さて、文学同人誌と一緒に作っていた面々はというと・・・なんとか前日に独特のページ組みをして、印刷して、ページを重ね、ホッチキス止めして、折る、簡単に言いますが、想像以上に寝不足の体には慣れないきつい作業でして・・・なんとかキンコースの閉店時間までに完成させ。

場は、文学フリマ会場のブース。交代で売り子をしている一同。

ちえ

みんなあまり寝てない中、朝から、ご覧のとおり文学フリマで販売しました。昼頃、終わった時には、ほぼ売れ残っていました。原さんは、大学の他の職員に売りつけるから大丈夫と、赤い目で、柘さんはカラ元気な笑顔を貼り付け、話してくれました。その後、休めばいいもののヘトヘトになった体に鞭を打ち鴨川で乾杯だけして写真を撮ることになりました・・・。

【23】鴨川で打ち上げ

鴨川。夕暮れ時。

まどか、なぎさ、田口、ももこ、ちえ、原、柘、良晴、美恵子は、缶ビールなどの飲み物を持っていて、

一同

乾杯。

と、乾杯したものの文学フリマに参加した面々は、眠そうにしている。良晴は、全員と乾杯していく。

原

(良晴に) 元気っすね。

良晴 検査入院してただけなんです。今日はお呼びいただきありがとうございます。
原 なんて全てが終わった後って、こんなに光が眩しいんでしょうか・・・
柀 ・・なんででしょうね・・・

一同は、夕焼けていく空を見ている。
まどかは、静かに眠りに就く。

良晴 (原に) お店ではやらないんですか？

原 おつきい声響くわ。・・もうね、お店をとる気力なくて。我々、文フリのポップ作ってて寝不足で、今日に至りますから。今、常、空腹で、足プルプルしてます。

柀 今回、学生さんも最後まで付き合ってくれはったし、労をねぎらいたいケド・・・もうココを立てへん・・・(なぎさに) 石黒先生に送る写真だけ適当に撮つといて。
なぎさ はい。

良晴 (原・柀に) いやあ、ありがとうございます。まさか自分の詩が「夕映えのゆくえ」の最終号に掲載されるなんて！ すいません。検査入院で、しっかり休んだので、元気が有り余ってて。(缶ビールを開ける)
美恵子 はい回収。(缶ビールを取り上げる)
良晴 えー。
美恵子 結果がでるまで。(良晴の開けたビールを飲む)

ももこが酒を煽っている。

田口 (ももこに) 飲みすぎ。
ももこ あー、お腹空いたー。眠いー。
田口 もうすぐウーバーイーツ来るから。
ももこ 今、どこよー？
田口 まどかさんが頼んでくれてはる。
なぎさ まどかさんが頼んでるわ。
ちえ ・・じゃあ、私この辺で。
なぎさ 帰るん？
ちえ 明日、朝から授業なんです。
なぎさ うちらも授業やけど。
ちえ やー・・・
なぎさ 今日くらいおりにゃ。
ももこ ちえ。あかん。

ちえ こじもも・・・。

ももこ ・・今日はうちと仲直りするまで帰ったらあかん。

田口 (ももこが) 酔っぱらってるみたいやし。

ももこ お主、こちらへ参れ。同じ2回生。酒で水に流そうではないか(お酒を一気に飲んで)。

ちえ うん・仲直りしたい。

ももこ やー、あの時、なんか服引つ張ったりしてすまなかったでござる。

ちえ どういうキャラなん？

田口 酔ってんねん。

ももこ 真剣に聞いて。

ちえ うん。

ももこ うちは全然、もう大丈夫やし。

ちえ ありがとう。

ももこ 仲直りのしるしに川入ろうぜ。

ちえ あ、うん。

ももこ 食材、獲ろうぜ。(フラフラしながら靴を脱ぐ)

田口 危ない危ない。

ももこ この川、洗濯し申す、ぜよ。

ちえも、ももこと一緒に靴を脱ぐ。

原は、夕焼けていく空に、

原 ああ。こんだけ命削って書いて、意味あるんでしょうか。書いたところで、世界は何一つ変わってない。今日もミサイルが飛び交う国がある・・・私たちはなんのために書くんでしょうか。

川に入るももことちえ。

良晴 自分の読みたいものがあるからじゃないですか。ピンポイントで自分に刺さるもんは、自分で書くしかありませんからね。

柊 わかります。公式が出てくれへんもんは、自分で書くしかあらへんからね。

原 でも、たまに不安になったりするんです。こんなお金も休日も削って、なにしてるんやろうって・・・。

柊 原 あら。おセンチ原になってはるやないですか。

原 でも、しゃあないんやろなって・・・人間やっぱり、どっかで頭ん中を人と共有しないと、生きづらくなる生き物やと思うんです・・・私も「そん

なごとアルマジロ」を作品化して外に出さなきゃいけなかったんです。わかります。見てください。私は、無駄にモルタニア王国のペンダント作りしました。これもきつと作らなきゃいけなかったんです。．．この世界に必要なのに．．でも必要だと信じてあげられるのは私だけなんです。それは．．中二発動してません？

良晴　．．私も必要だと思いますよ。

川に入っているももこが、

ももこ　カニー！（みんなに見せる）

ちえ・田口　おお。

ももこ　焼いて食おうぜ。もお生でいったろ。

ちえ・田口　あかんあかん！

カニを口に入れるももこ。
止めるちえと田口。写真を撮るなぎと。
相変わらず寝ているまどか。

更に、夕暮れてくる。

原　やー．．こんなゆつくり夕日見たん久しぶりやわ．．。

柊　石黒先生いてはったら言うてたやろね。「夕日一つとっても、みんな違

うもの見てますからね。」

良晴　同人誌って何冊か買えますかね？

原　後にしてもらっていいですか。

柊　原、柊共におセンチモードなんで。

美恵子　傍から見ててですけど．．好きなこととしてはる人のエネルギー凄い、なんていうか．．好きです。

そこへ、若菜が走ってくる。

彰吾が、追いかけて現れる。

若菜が、ちえに一冊のノートを渡す。

若菜　お兄ちゃんが、ちえのことめちやくちや詩にしたた。

彰吾　（ちえに渡ったノートを取り上げ）書いてない。書いてない。ちえ、ち

やうねん。書いてない。じゃあ．．．お幸せに。

彰吾は去る。

若菜

・・・（携帯電話を出して）写真に撮ってん。見る？

ちえは、若菜の携帯電話をのぞき込む。

彰吾の詩（*6）を読む。

良晴・美恵子も覗き込む。

柗と原は、ビールを飲み干し、

柗

沁みるねえ。

原

喉元過ぎれば、ですな。

若菜

（彰吾の詩を読んで）きもすぎる。

良晴

（彰吾の詩を読んで）僕は好きやけどね。

美恵子

（彰吾の詩を読んで）私はメロディが聴こえてきた。

ちえ

（彰吾の詩を読んで）やー・・・。

まどか

（目覚めて）ちよっと、マジックアワじゃんー！なんで起こしてくれないのー？みんな写真写真・・・。凄い夕映え。

ももこ

まどかさん、カニ捕りました。

まどか

カニじゃなくて写真撮ろ。夕日、終わっちゃう。そこに集まってくたさい。

まどかの指示で、一同は並ぶ。

が、美恵子が、場を離れてしまう。

美恵子は、まだ近くにいた彰吾を引っ張って戻ってきた。

並んだ一同にカメラを向けるまどか。

まどか

・・・ハイチー・・・、

まどかの体から、ゆっくりと力が抜けていき、地面に寝転がっていく。

一同

・・・まどか？ / 寝てる、寝てる！（などなど）

全体が夕映えて。

【24】まどかの家

寝ていた吉村、目覚める。

吉村 ハッ！？・・・(どこどこ)・・・。(まどかの家であることに気が付き) ああ、書かな書かな！

吉村は、パニックになり部屋を行ったり来たりして、

吉村 ……あれ？

「夕映えのゆくえ」最終号を見つける。

吉村 「夕映えのゆくえ」・・・できてる・・・なんで。夢？ これは夢なんか・・・。(ほっぺつねる等して)めちやくちや痛い・・・。

「夕映えのゆくえ」最終号のページを開く吉村。

そして、ページをめくって読み始める。

玄関が開く音がする。

それでも読んでいる吉村。

まどかが帰ってきた。

まどか 起きたんですね・・・それ出来たんです。

吉村 ああ、お帰り。・・・(読みながら)やっぱりうちの作品がいつちゃん、おもしろい感じるなあ。

・・・。

吉村 これ、うちの作品「つづく」ってなってるやないか。

すいません・・・途中だったので・・・私の判断で・・・。

続き書かなあかんあゝ。・・・なんで痛みって忘れるんやろ。

・・・。

吉村 よっしや今ならいけそうや。続き書くわ。

あの・・・お風呂入るか帰るかしてもらえませんか？

・・・匂うか？

正直・・・。

吉村 まあ、文学ってのは人の臭みで出来てるから。ええ匂いでごまかしてもしゃあないやろ。・・・だって・・・『にんげんだもの』(引用：相田みつを)。
まどか ……。

吉村は、再び「夕映えのゆくえ」最終号に目を落とす。

吉村は、自分の作品を読んで顔が綻ぶ。
その綻びが声になって漏れる。

まどか
．．．。

まどかは、別室から消臭スプレーを持ってくる。
吉村に向ける。

吉村
なんや。

吉村に消臭スプレーを噴射する。

吉村
なにしてんの！

まどかは、吉村に消臭スプレーを噴射し続ける。

吉村
(スプレーをされながら) ええ匂いでごまかしてもしやあないんや！
文学はな、人の臭みなんや！ やめろおー！

逃げる吉村。

消臭スプレーを噴射しながら追うまどか。
鬼「っ」のようになりー。

音楽。

◆劇中の詩◆

*1 (良晴の若菜の成長を思った詩)

「娘のうしろ姿」

若菜のうしろ姿が、母親にそっくりだったんだ。
こんなに大きくなったんだ。

おさげの小さい少女はどこに。

ぶにぶにほっぺの少女はどこに。

こうして、いつかオトナの女になっていくんだ。

こうして、いつかお母さんになっていくのだ。

*2 (学生たちの写真に掲載した詩)

一致団結すれば、虹 大森まどか

ノーポエム ノーライフ 木本なぎぎ

サヨナラの後も世界はある 青野ちえ

素直になれる魔法が欲しい 田口はじめ

壊れそうだから云わないこと 小島ももこ

*3 (田口の書いたちえへのフェイク詩)

「実は、恋人なんだ、ごめんね」

同じ背丈の君が好き

ボブヘアの君が好き

でも届かない

だから

ちかくに

えをかく

らくがき

ぶぎように

*4 (ノートに書かれた若菜のメモ)

若い菜っ葉の事も、たまには書いてみる。

*5 (良晴の病床で娘への詩)

「若菜へ」

君の亡き母は、私に伝えた

ここには書かないけれども

君の亡き母は、何度も伝えた

どこにも書かないけど

君の母はとてもやさしい人でした

君の母はとてもあたたかい人でした

君の母は、私の妻で、昔は恋人で、もういないけれど

私がいつまでも味方でいるのは

君の母と会える気がするから

私の妻であり恋人であり友人と会える気がするから

私は最期するときまで、君の母との約束を守ろうとおもおうよ

なにとは言わないけれど、私は今日も約束通りに生きています

*6 (彰吾のちえへ向けた詩)

「君をケージに入れて飼いたい」

君をケージに入れて飼いたいんだ

付き合うとか結婚したいとか そんなんじゃない

恋人になって彼女ヅラされても困る

養えと言われてもそんな甲斐性はない

ただ君をケージに入れて飼いたいんだ

ただ君をケージに入れて飼いたいだけ

チワワを飼いたいかそんなレベルで

君をケージに入れて困い込んで

いろんなことを制限してしまいたい

でも君は変っちゃダメ オリジナルの君で

ケージに入れボール与え 遊ぶ君を見てみたい

飼いたいんだ この気持ちわかるかな

やばいという考えの持ち主かな？

やばい考えの持ち主かな？

君をケージに入れて飼いたいんだ

◆上演に際して◆

【劇中の詩】は上演の際、朗読されないことが望ましいです。「詩(リリック)ではなく抒情性(リリズム)の表現を」と、この戯曲を執筆しました。【劇中の詩】は、「読み物」としても「読む」という行為を作る上でも【ことば】が必要だと感じ【劇中の詩】を綴りました。